

様式第4号（第5条関係）

2020年3月31日

古賀市議会議長

議員名 奴 間 健 司



平成31年度6～3月分政務活動費収支報告について

古賀市議会政務活動費の交付に関する条例第6条第1項に基づき、別紙のとおり政務活動費収支報告書を提出します。

- 1 平成31年度6～3月分政務活動費収支報告書

- 2 添付書類
 - (1) 政務活動費収支報告書（別紙1）
 - (2) 政務活動費支出内訳書（別紙2）
 - (3) 領収書又はこれに準ずる書類
 - (4) 調査研究報告書

別紙1

平成31年度6～3月分政務活動費収支報告書

議員名 奴 間 健 司

1 収 入

政務活動費 100,000円

2 支 出

項 目	金 額 (円)	支出内訳書の番号
調査研究費	15,065	5
研修費	30,990	1, 2
広報費	58,772	3, 4
広聴費	0	
資料作成費	0	
資料購入費	0	
事務費	19,073	6, 7
支出合計	123,900	

3 残額

0円

別紙2

平成31年度6～3月分政務活動費支出内訳書

番号	期 間	内 容	経費 (円)	備考
1	2019年6月 29日～30日	輝け議会！対話による地方議会改革フォーラムin平戸及びSIMULATION 2030研修会	19,230 研修費	報告書添付
2	2019年 8月9日	第6回地域公共交通総合研究所シンポジウム	11,760 研修費	報告書添付
3	2019年 8月19日	ぬま健司の提言詳報 (第13弾)	31,039 広報費	冊子添付
4	2019年 12月1日	ぬま健司の提言詳報 (第14弾)	27,733 広報費	冊子添付
5	2020年 2月24日	長崎県壱岐市 みらい創りプロジェクトSDGs対話会	15,065 調査研究費	報告書添付
6	2019年7月 4日～2020 年3月3日	インク代 7件分	17,443	領収書添付
7	2019年8月 2日～2020 年1月8日	コピー代 7件分	1,630	領収書添付
8				

※研修及び視察には報告書を添付のこと

支出内訳書の番号

1

調査研究報告書

1 名称	輝け議会！対話による地方議会改革フォーラムin平戸 及びSIMULATION2030研修会
2 目的	住民との対話で議会機能を発揮するための議会改革を推進すること。SIM2030の体験をすること。
3 実施時期	2019年6月29日～30日
4 実施場所	長崎県平戸市
5 参加者	奴間健司
6 その他	<p>6月29日に長崎県平戸市で開催された「輝け議会！対話による地方議会改革フォーラムin平戸」には議員、市民約100人が参加した。</p> <p>元三重県知事の北川正恭さんは基調講演で、議員活動は熱心だが議会活動が無い状態を改善すること、住民の代表機関は議会であり民意を反映するのが議会であること、対話は互いに納得や気づきが得られる、そのような対話の技術を身に着けることなどを提起した。</p> <p>小値賀町議会前議長の立石隆教さんは、傍聴者から意見を聴く模擬公聴会や議会が町の総合計画案を作成した経験などを報告した。大変参考になる事例だった。</p> <p>福津市の山口覚さんの進行で、4人ずつ分かれたグループワークが行われた。相手の話をよく聞くこと、否定しないこと、長く話さないことなど対話の進め方のアドバイスも行った。</p> <p>対話の力、対話の場をすることや技術の必要さなどを学んだ。</p> <p>議会改革フォーラムの二日目。6月30日の午前中は、対話型自治体経営シミュレーションゲーム「SIMふくおか2030」に参加。福岡市の職員である杉村昌樹さんをはじめ、平戸市や佐世保市の職員の有志の皆さんが進行、指導してくれた。</p> <p>私は2回目の体験だったが、この取り組みを本当に身につけないといけないなと痛感した。</p>

6人のグループで、それぞれ架空の市の幹部職員に任命される。社会保障の2億円増の確保、2つの新規事業の選択、財源確保のための事業の廃止か借金。周到に準備されたシナリオに沿って話し合うが、なかなか難しい。

予算を作ると別の班の皆さんが議員役となって厳しい質問があり、執行部になって答弁しなければならない。納得されなければ予算は否決される。

何を削るかという議論に追われてしまう。しかし、将来のビジョン（マスタープラン）を基準に、ビルド&スクラップするという観点が本当は必要だ。

私は2018年3月議会の一般質問で酒田市の取り組みを紹介したことがある。今回の経験をもとに、古賀市でもこの取り組みが広がるよう検討してみたいと思った。

支出内訳書の番号 2

調査研究報告書

1 名称	第6回地域公共交通総合研究所シンポジウム
2 目的	地方公共交通政策の最新情報を学び、古賀市における公共交通のあり方に生かすこと。
3 実施時期	2019年8月9日
4 実施場所	熊本市
5 参加者	奴間健司
6 その他	<p>第6回地域公共交通総合研究所シンポジウムに参加しました。「令和の地域モビリティをいかにつくっていくか?~新たな技術・新たなコンセプトで、新しい時代を切り拓く」というテーマ。</p> <p>地域公共交通総合研究所の代表理事である小嶋光信氏は、「危機的な地域公共交通の持続可能な発展への提言」をした。</p> <p>地域交通の抜本的改革には法改正、財源確保、国家的な利用促進運動の3つが必要。</p> <p>1. 現行法に基づく制度改革では持続可能な地域交通維持は不可能。</p> <p>地域では法律が想定していた競争ではなく、路線維持こそが利用者の利益となり、交通事業者が健全に発展できるかがポイントになる。今すぐにでも需給をしっかりと見据えた法律に改正せねば、競争主体の現行法下で大部分の交通事業者が健全な経営ができず、終には路線がなくなるという利用者にとって最大の不利益となることを理解すべき。</p> <p>2. 新たな交通財源を持たねば持続可能な地域交通維持は不可能です。</p> <p>今後、路線バスも環境面や健康面からEV化やIT化が求められるが、80%以上赤字の地域交通では自費負担は困難。従って地方では、公設民営化は鉄道や船のみな</p>

らずバス事業においても必要な取り組みとなり、これらの財源も必要。

先進ヨーロッパ諸国のように環境税や炭素税などとも連動して新たな交通目的税を創設せねば維持はできません。少子高齢化社会の地域公共交通は地方社会を維持するインフラである。

3. 「乗って残そう公共交通」国民運動で利用促進せねば地域交通維持は不可能。

いくら法改正、制度改正と交通財源を創設しても、国民が利用しなければ地域交通は維持できない。

まさに歩くことと一体の公共交通利用は、少子高齢化社会における国民の健康維持への国家的ソリューションになる。

現状のように問題が起きるたびに手直しをするのでなく、抜本的な3つの改革を地方創生の大きな柱として、将来に向かった明るい地方を創り、エコで健康にやさしく高度にIT化された世界一の先進的な「エコ公共交通大国」を目指すことを提言する。

以上の提起は古賀市の公共交通を考える前提にもなると感じた。

二日目のエクスカージョンでは、熊本市の公共交通政策を学んだ。2013年3月制定の公共交通基本条例や2016年3月策定の地域公共交通網形成計画について特に注目した。私は、地域公共交通網形成計画策定について質問し、熊本市の担当者から具体的なアドバイスをいただいた。

古賀市は地域公共交通網形成計画の策定に今年から着手します。路線バスの運行をどうするのか、コミュニティバスや相乗りタクシーをどうするのか、赤字補填を継続するのか公設民間委託に切り替えるのか、いろいろな論点がある。あるいは自動運転など新たな技術による交通システムを構築するのか。

調査研究報告書

1 名称	長崎県壱岐市・みらい創りプロジェクトSDGs対話会
2 目的	SDGs 未来都市として先進的なまちづくりを進める壱岐市。気候非常事態宣言を日本で初めて行った壱岐市。そしてSDGs 対話会を継続して取り組んでいる壱岐市の取り組みに学ぶことが目的。
3 実施時期	2020年2月24日
4 実施場所	壱岐市
5 参加者	奴間健司、清原哲史
6 その他	<p>古賀市議会は1月20日に壱岐市SDGs未来課の小川和伸課長を講師に招き、気候非常事態宣言について研修した。小川課長に依頼し壱岐市の特徴的取り組みである「SDGs対話会」を現場で見るために壱岐市を訪問した。</p> <p>その名も「壱岐なみらい創りプロジェクト『アイデア発表会』」。「壱岐がいつまでも暮らしやすい島であり続けるために、何を変えなくてはいけないのか？皆さま、一人ひとりがやるべきことは何か？壱岐のことが好き！壱岐の未来はこうあって欲しい！ということをも市民みんなで話し合いませんか！？」という呼びかけで、第1回 SDGs とは何か？（5月18日 壱岐商業高校総合実践室、5月19日 壱岐高校コモンホール）、第2回 みんなの未来図を描いてみよう！（6月15日 壱岐商業高校総合実践室、6月16日 壱岐高校コモンホール）、第3回 テーマ設定（9月15日 壱岐の島ホール 中ホール）、第4回 具体化に向けたアイデアの検討（11月17日 かざはやイベントホール）、第5回 発表（2月23日 つばさイベントホール）の5回開催された。</p> <p>私が見学したのは最終回の発表会であった。</p>

一般の部では酢飯屋の岡田さんが持続可能な郷土寿司「SDGsushi」について発表。「ダイバーシティキャンプ in IKI」について嵯岐みらい創りサイトが資料説明。

5チームが発表。

・ポジティブアルマゲドンチーム・・・ 「嵯岐焼酎」
ポーっと飲んでんじゃねーよ！

・ジェントルマンズチーム・・・ タッチミー神珠

・one for all, all for one チーム・・・ みんなの知らない「ホテルの情熱」

・SummerChallenge チーム・・・ 手伝います！あなたの家のリノベーション。

・それいいね！チーム・・・ 食べてほしーる。

発表後に、白川市長から優秀賞の表彰が行われた。

高校生が夏休みにアイデアを出し、それを実現する活動を8か月かけて行った姿。そしてSDGsの17目標に関連付けて説明する姿に感動した。高校生がこんなにも頑張っている姿を見て、大人たちは揺さぶられ、地域を元気にしようという機運が高まっている。

小川課長からこの発表を行った若者が市役所に就職して頑張っているケースもあるとのこと。

学びの多い視察になった。古賀市でも若者を巻き込んだ対話の場を作り、まちづくりを推進したいと考えた。

領収書

令和元年6月29日

奴間 健司様

5,000 円

輝け議会!! 対話による地方議会改革フォーラム in 平戸
及びSIMULATION2030 研修会参加費として

ローカル・マニフェスト推進ネットワ

代表

合算処理

0000-7988

領収証

奴間 健司様

¥10,410

(消費税 ¥495)

但し、
サムソンホテル
平戸市田平町野田免210-6

*保管上のお願い
財布等で保管戴く場合、印刷面を内側に折って保管願います。

担当者

領収証No 4802

	消費税	9,500	9,500	
	入湯税		760	
			150	
署名 Signature			ご利用合計 Total	請求額 Amount billed
会社名 Firm			10,410	10,410

(税抜 9,500)

No.

お名前 (Name)

奴間 健司 様



〒859-4826
長崎県平戸市田平町野田免210-6
TEL:0950-57-1110 FAX:0950-57-1139

予約金・前受金 Advance	クーポン Coupon	クレジット Card
未掛金 Account's receivable	ご返金 Repayment	ご請求額 Amount's billed
		10,410

発行月日 (Issue)
2019/06/30

因
乗車券

9153219

佐世保 ▶ 千鳥

經由：佐世保線・長崎線・鹿
兒島線

06月30日から 2日間有効

領収額

2480円

博多車掌区

4016M

2019年06月30日

※自動改札機は、ご利用できま
せん。係員のいる通路をお通り
ください。

松浦鉄道

甲

普通乗車券 No. 042167

たびら平戸

→佐世保

途中下車前途無効

經由 (-)

発売日共 1 日間有効

¥ 1,340

~~平成~~ 19 年 6 月 30 日

たびら
平戸

No. 167652-1

ご利用明細書

Description

リバーサイドホテル熊本

〒860-0012
 熊本県熊本市中央区錦屋今町4番12号
 TEL.096-356-3110 FAX.096-353-1198
 E-mail:info@riverside-hotel.co.jp
 http://www.riverside-hotel.co.jp

お名前(Name)

奴間 健司

様

お部屋 Room	ご到着日 Arrival	泊数 Nights	ご出発日 Departure	人数 Persons	発行日 Issue	担当 Clerk	ページ Page
623	2019/08/09	1	2019/08/10	1	2019/08/10		1

日付 Date	お部屋 Room	ご利用明細 Description	単価 Unitprice	数量 QTY	金額 Charges	入金 Payment
08/09	623	ご宿泊料金(インターネット) 前受金	6,800	1	6,800	6,800
ご署名 Signature					ご利用合計 Total	ご請求額 Balance
会社名 Firm					6,800	0

No. 167652-1

領収書

Receipt

お名前 (Name)

奴間 健司

様

リバーサイドホテル熊本

〒860-0012
 熊本県熊本市中央区錦屋今町4番12号
 TEL.096-356-3110 FAX.096-353-1198
 E-mail:info@riverside-hotel.co.jp
 http://www.riverside-hotel.co.jp

予約金・前受金 Advance	クーポン Coupon	クレジット Card
6,800		
売掛金 Credit	ご返金 Repayment	領収額 Receipt
		6,800

19,810

 収入
印紙

乗車券

.....0000

千鳥 → 熊本

經由: 鹿見島線

8月9日から 8月10日まで有効 ¥2,480

2019.-7.30 千鳥駅-R発行
50068-01 (6-) C62

乗車券 (幹)

.....0000

熊本 → 千鳥

經由: 熊本・新幹線・博多・鹿見島線

8月10日から 8月11日まで有効 ¥2,480

2019.-7.30 千鳥駅-R発行
40067-02 (6-) C62

領収書



日付: 2019年8月19日

領収書番号: R-1908119623

奴間 健司 御中

ラクスル株式会

〒141-0021 東京都品川区上大崎2-24-9 アイケイビル 1F

tel: 03-4577-9200 mail: contact@raksul.com

¥31,039-

但し 商品代として
上記金額を正に受領いたしました。

ご注文番号	商品名 / 商品仕様	部数	出荷日	金額
1908119623-01	冊子・カタログ,中綴じ冊子,左綴じ,24ページ,A5,表紙(両面カラー 光沢紙(コート) 標準: 90kg 表面加工なし),本文(両面カラー 光沢紙(コート) 標準: 90kg)	200部	2019年 8月19日	¥28,740
	注文内容:	商品:		¥28,740
	注文合計:			¥28,740
	消費税:			¥2,299
	ご請求合計金額:			¥31,039
	お支払い方法:			クレジットカード

ぬま健司の提言詳報(第12弾)

2019.6.19

一問一答 田辺市長との初の一般質問



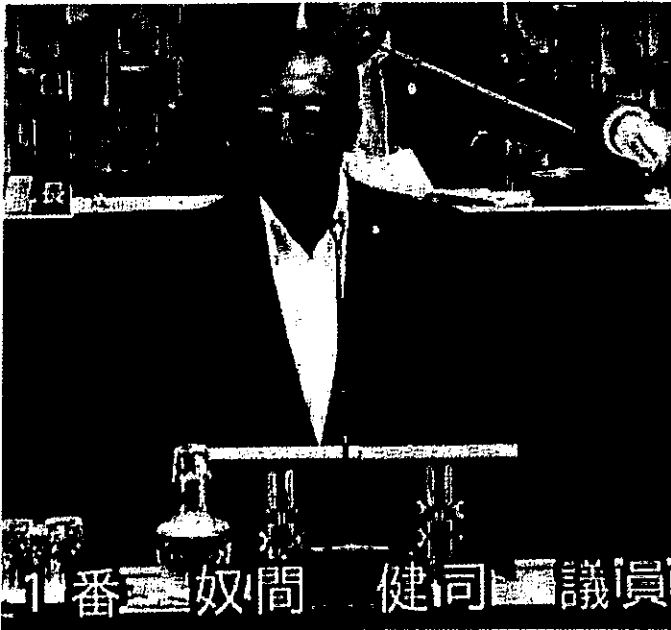
- ★第5次総合計画策定基本方針の特徴
- ★過去の総合計画の教訓を活かそう
- ★総合計画には財政計画が必要不可欠
- ★どうするSDGsと新国富指標活用
- ★将来見通しに問題多い「道の駅」
「整備しない」市長判断を求める

- テーマ① 第5次総合計画、本気で力を入れますか
- テーマ② 道の駅、本当に力を入れるのですか

2019年8月30日

福岡県古賀市議会議員
奴間 健司





○奴間 健司 皆さん、こんにちは。会派友和（ゆうわ）の奴間健司です。1年ぶりの一般質問です。いろいろありました。新しい時代にふさわしい、新しいまちづくりを促進するため、気持ちを新たに頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、きょうの最初のテーマは、第5次総合計画です。この計画は2022年度から始まります。将来ビジョンと優先課題を明確にするため、ことしから3年間とても大事な期間となります。しかし、この策定方針は、1月議会での所信表明や3月議会での施政方針でも示されませんでした。そこで質問します。

1、第5次総合計画策定に本気で力を入れるのか。総合計画の必要性をどう認識しているか。

2、第5次総合計画の内容や構成、基本構想、基本計画、財政や人口フレーム。

3、策定スケジュール、体制、並びに議会の議決について。

4、SDGs、持続可能な開発目標を念頭に置くことは重要だが、どう反映させるのか。

5、新国富経済指標を参考に、健康、教育、地域を柱とする基本構想を提言するがいかかがか。

2番目のテーマは道の駅です。道の駅基本計画暫定案は、問題点が多く、市民を巻き込んで検討する価値があるのか疑問を持っています。そもそも市長公約や所信表明には、道の駅はありませんでした。持続可能な地域づくりに着手しようとするとき、道の駅を先行させてよいものでしょうか。そこで質問します。

1、道の駅に本当に力を入れるのか。道の駅整備は、市民との約束と言えるのか。

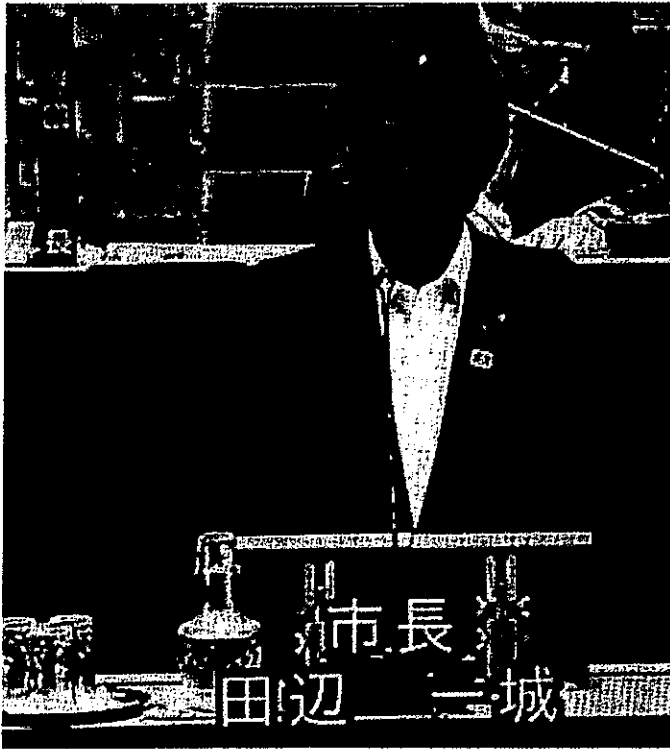
2、道の駅整備費3,648万円は、執行部内不一致による計上ミスではないか。

3、暫定案は市の案と言えるのか。市民の意見を聞く前に、職員、第三者で判断すべきではないか。

4、暫定案段階でも約23億円の投資、財政見通しは大丈夫か。

5、持続可能な地域社会構築の基本方針を、市長はぶれずに貫くべきではないか。

いずれも市長に答弁を求めます。



○田辺 一城市長 奴間議員の1件目の御質問、「第5次総合計画、本気で力を入れますか」についてお答えをいたします。

1点目についてお答えします。少子高齢化や人口減少の急速な進行による人口構成の変化など、我が国の社会経済情勢は急激に、大きく変化をしております。このような中、本市の強みや地域特性、有用な資源を最大限に生かし、未来へつなぐとともに、必要な市民サービスを安定的に供給する持続可能な都市となるためには、中長期的な視点と時代の変化に的確に対応できる短期的な視点、この両方を持ち合わせた計画の策定が必要と考えており、目指す都市イメージとその実現のための政策をまとめ、持続可能なまちづくりの指針となる新たな総合

計画を策定することとしております。

2点目についてお答えします。次期総合計画は、中長期的な視点に立った基本構想と、その時々々の社会経済情勢や財政状況等を勘案し、実効性、弾力性、即応性を備えたアクションプランの二層構造で策定したいと考えております。財政フレームや人口フレームにつきましては、中期財政見通しや今年度改定を予定している人口ビジョンなどを踏まえて検討することとしております。

3点目についてお答えします。次期総合計画につきましては、市長、副市長、教育長及び各部長で構成する総合計画策定本部、課長級の職員で構成する総合計画策定会議、係長級の職員を中心に構成する策定ワーキンググループなどの庁内組織における検討を今年度から開始し、令和3年9月議会に基本構想案を上程する予定としております。

4点目についてお答えします。次期総合計画では、政策推進における経済、社会、環境の3側面の統合的取り組みによる相乗効果の創出、市の施策とSDGsのターゲットとの関連づけ、バックキャストイング、すなわち未来のある時点の目標とする状態から現在を振り返って、今何をなすべきかを考える方法を取り入れた事業構築など、策定過程のさまざまな場面でSDGsの視点を取り入れ

ることとしております。

5点目についてお答えします。御指摘の健康、教育、地域の視点は、本市のまちづくりにおいて重要と認識しており、本年度の当初予算案の概要とともにお示ししました持続可能な都市に向けた経営方針におきましても、その方針を掲げております。

御提言の新国富経済指標につきましては、GDPだけでははかれない地域の豊かさを数値化する手法として研究が行われていることは承知しており、御意見としてたまわります。

続いて、2件目の御質問、「道の駅、本当に力を入れるのですか」についてお答えします。

1点目についてお答えします。道の駅につきましては、整備するかはまだ決定しておりませんが、第4次古賀市総合振興計画・後期基本計画に基づき、私が市長就任前からこの2年間検討を行ってきており、今回その結果として道の駅基本計画暫定案ができたところです。

また、私が選挙公約で市民の皆様と約束させていただいたのは、観光と物産の拠点の必要性についての検討です。道の駅を直接の公約にはしておりませんが、市長就任後、行政の継続の観点から検討そのものは続けてきています。その上で、市民の皆様にとってとても大切な話で

あるため、現在、市民の皆様からの意見を募集しており、さらにタウンミーティングを開催するなど、丁寧に説明をさせていただきながら慎重に検討を進めております。

2点目についてお答えします。今年度予算に計上している道の駅に係る予算、基盤整備基本設計策定、用地測量業務、補償料調査業務の委託料の合計約3,648万円については、やるという意思決定をしたときに速やかに次の段階に着手できるように計上させていただいており、議会でも説明をし、承認をいただいております。

3点目についてお答えします。道の駅基本計画暫定案は、第三者であるコンサルタントが行った検討内容をもとに庁内で協議を行った上で、現時点での市の暫定案としております。今後も庁内での検討を十分に行いながら、市民の皆様からの御意見等も踏まえつつ、最終的に夏ごろに整備するかどうかの方針の決定を行う予定としております。

4点目についてお答えします。暫定案では、概算総事業費を22.6億円と想定しており、長期にわたる市の財政負担も必要となりますことから、事業の収支見込みや経済波及効果については、現在、慎重に精査をしています。

5点目についてお答えします。所信表

明においても申し上げておりますが、さまざまな課題解決を進めていく上で念頭に置かなければならないのが、現在だけでなく未来のあり方を考える持続可能な地域社会の構築であると考えています。観光拠点機能と産業力強化機能を備えた道の駅の整備の必要性につきましては、暫定案の精査や市民の皆様、議会の皆様の御意見も踏まえつつ、検討を進めているところです。施政方針では農商工の魅力を高める産業力の強化を重要な施策の柱と位置づけており、産業力の強化は持続可能な古賀市のまちづくりにとって必要であると考えています。

○奴間 健司 きょうは田辺市長との初めての一般質問で、この日を大変楽しみにしておりました。本題に入る前にちょっとお願いがあります。市長は大変雄弁家で、完璧な答弁が続きます。そうするとちょっと対話が難しいときもあります。きょうは、私、できるだけ肩の力を抜いて、お互いに刺激となり、気づきの多い議論を心がけます。おつき合いたいただきたいのですが、いかがでしょうか。

○田辺 一城市長 明瞭でわかりやすく答弁をさせていただきます。

議会の提言を受け止める仕組み

○奴間 健司 3月25日の庁議の記録を見ましたら、市長は定例会での提案提起については、6月定例会以降、庁議の

場で部長と打ち合わせを行う、その後、各部で一定の整理をし、各課で必要があるものは課長を中心に研究、検討をするという指示をしたとありました。これは大変よいことで、今まであいまいだった点です。一般質問における提言を組織的に受けとめる仕組みだと理解いたします。また、これは当然議会ですから、常任委員会、特別委員会、政策推進会議での提案提起にも対応されるものと思っておりますが、いかがでしょうか。

○田辺 一城市長 もともと私も議会議人、地方自治の本旨は二元代表制であると考えています。それを改めて組織の意思として徹底するために、庁議の場で議会の御提言、御提案をしっかりと整理していこうという話を御指摘のとおりさせていただきました。これは、議会におけるさまざまなやりとりも同じだと考えています。

○奴間 健司 ぜひそれを堅持していただきたいと思います。

やっと決まった総合計画策定方針

それでは、第5次総合計画です。答弁を聞きまして、やっと策定方針が決まったことが伝わってきました。この策定方針は、先ほどの中身を聞くと、従来のマスタープランの発想を変える立派なものだと感じました。市長並びに経営企画課の職員の御努力に率直に敬意を表し

ます。市長はこの策定方針に特別の思いがあるのではないかとと思いますが、いかがでしょうか。

○田辺 一城市長 議員御指摘いただいたように3年間かけてつくっていく、2022年度からの10年のまちづくりの指針を示すものです。最も本市にとって大切な営みになると考えています。そうした基本認識のもとに、皆様からもしっかり御意見いただきながら向き合っていくっていききたいと思っています。

○奴間 健司 ちょっと調べていったら、内閣府の地方創生推進室が自治体SDGsというのを推進しています。今回の策定方針の言葉づかいも含めて、かなりこれを参考にしながらやっけていこうと感じたんですが、いかがですか。

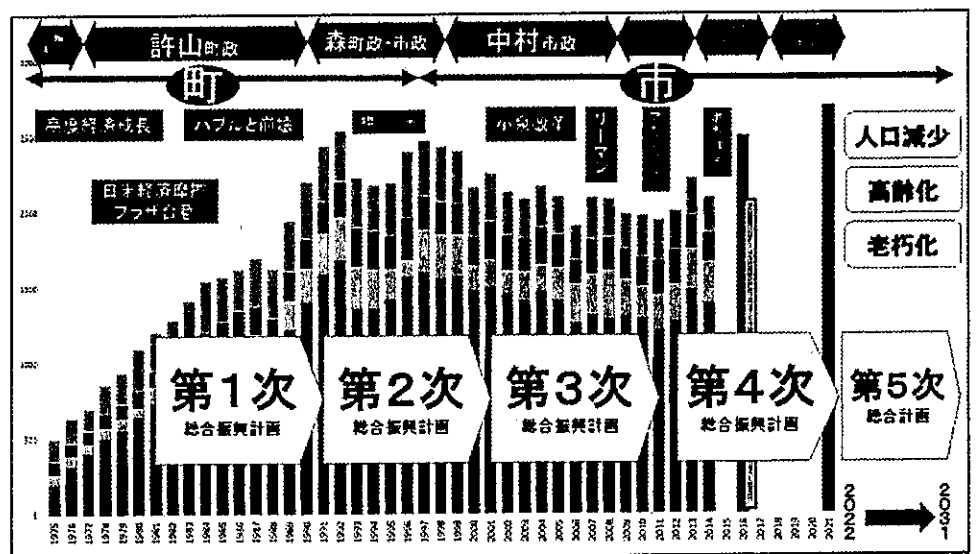
○田辺 一城市長 SDGsにつきましては、私も市長選挙の際に市民の皆様とお約束をさまざまさせていただいておりますが、その中でも大切にしていたものです。これをどうやって市政運営に取り入れていくかということを考えますときに、最も大事な指針である総合計画において、SDGsの考え方を策定過程にしっかりと生かしていくということが大切だろうと思いま

す。そうした私の意も酌んで、職員も今回この策定方針を立ててくれたところでは。

○奴間 健司 国が推奨する方向性を踏まえることは、とてもいいことだと思います。ただ、古賀市の特性をよく調べ、頭を悩ましながらですね、課題を見つけていく作業。新しい言葉が並んでいます。借り物ではうまくいかないと思います。これから大事だと思うんですが、その認識はいかがですか。

○田辺 一城市長 古賀市のまちづくりの指針をつくりますので、古賀市が今現状どういった状況にあるかということを確認にとらえた上で、このSDGsの手法というのを生かしていくということだと思います。

○奴間 健司 マスタープランとか総合計画といってもなかなかぴんとこないという声もあります。振り返ってみたいと思います。画面をお願いいたします。



これは、古賀市の製造業出荷額の推移を示すグラフに、各時代の総合計画を張りつけたグラフです。

過去のマスタープランの経験と教訓

第1次は1981年、許山町長が策定。町の基盤づくり、高度経済成長、バブル経済を背景に、グラフを見て一目瞭然ですが、製造業出荷額は右肩上がり。

第2次は1991年、森町長が策定。中村市長に引き継がれました。製造業ではピークの時期を迎えています。構造改革を背景とする時代。この時期に町から市になり6大公共事業に投資されました。

第3次は2001年、中村市長が策定。小泉構造改革やリーマンショックを背景に製造業出荷額もなかなか伸び悩みの時代。6大公共事業の財政負担を背景に行革も行われています。

第4次は1年間の空白を経て2012年、竹下市長が策定。中村市長、田辺市長に引き継がれています。アベノミクス、地方創生などを背景とする時代。きのうも大きな地震がありましたが多く災害に直面した時代です。

きわめて大ざっぱな振り返りですが、経済成長との関係を見ると非常にわかりやすいのでこんなグラフをつくってみました。第4次までの約40年間には、まちづくりの貴重な経験が蓄積されていると思います。市長はどう振り返るで

しょうか。

○田辺 一城市長 この視点を御提示いただいております。ほぼ私の生まれたときからの、80年生まれなんで、それで古賀の町がこうした社会経済情勢の背景のもとに総合計画をつくってですね、営んできたということがわかります。

おそらく議員がおっしゃりたいところとは、こうしたわずか10年なんだけれども、これだけ国家社会的情勢というのは変化していくものなんだと。ですから、これから先の総合計画をつくるに当たって、こうした国家全体、世界もそうですが、置かれている社会情勢というのをきちんと正確にとらえるということ。そして、それによって本市の経済、さまざまなものがどういった影響を受けるかしっかりと想像した上で、その10年の計画を立てなければいけないんだろうと思います。そうしたことを改めて実感させていただく図だと思います。

量的拡大から暮らしの質の充実へ

○奴間 健司 苦労してグラフをつくってよかったと思います。これから3年間、第5次を作りますが、今まで経験したことのないような少子超高齢化、人口減少、また、公共施設の老朽化などと直面しております。「量的拡大から暮らしの質の充実」、一言で言うとそういった

転換が求められているのではないか、これは私の問題意識ですが、市長は共有できるでしょうか。

○田辺 一城市長 今私たちの国家と地域社会が置かれている最も重要な問題は、少子高齢化、そして人口減少だととらえています。人口が減少するという

ことは、生産活動が縮小する、また、消費というのも縮小していくことを意味しています。そうした中で、一人一人が満足感の得られる、いわゆる質的に高い人生を送れる、そうした地域社会を構築することが必要だという基本認識に立っており、

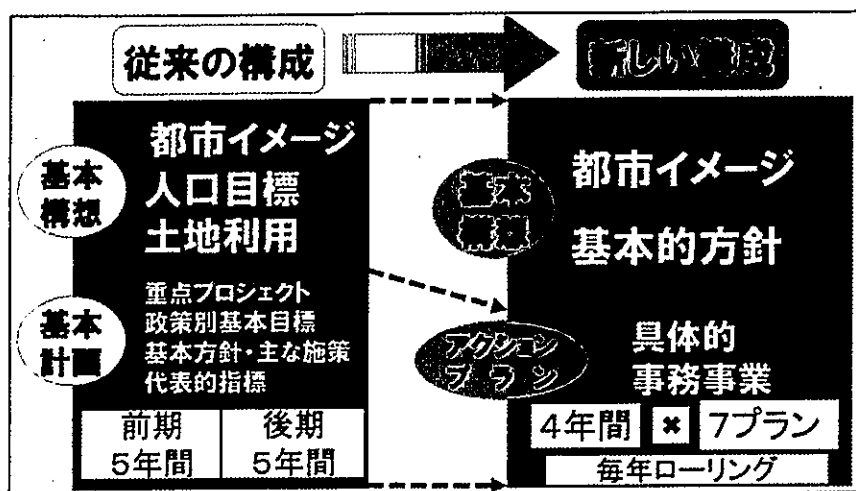
持続可能な地域社会というキーワードを使っています。

○奴間 健司 そこで自治体SDGsとか持続可能な地域づくりという言葉は、従来のまちづくりの考え方とか目標の設定を変革しよう、こういうことを要求している言葉だと私は理解しているんですが、いかがでしょうか。

○田辺 一城市長 劇的な変化だとは思いません。これまでのまちづくりの中でも、当然未来がどうあるべきかと考えて、当然総合振興計画等もつくられて市政運営がされていると思います。ただし、やはり今まで右肩上がりだった人口、また経済、経済はちょっと変遷はあります

けれども、基本的に右肩上がりだったこの社会というものが、大きく変化をしていくものに対応するために持続可能なという考え方がより重要になっているということだと認識をしています。

○奴間 健司 具体的に見ていきたいので、画面をお願いいたします。



この画面は、総合計画の構成図を示しています。左側、これは従来の基本構成。上の赤い部分が基本構想で、都市イメージ、人口目標、土地利用になっています。下の青い部分が基本計画。前期5年、後期5年で重点プロジェクト、基本方針、主な施策などが盛り込まれています。

一方、右側ですが、第5次総合計画の構成案。赤い部分は同じ基本構想ですが、従来との違いは都市イメージを具体化するための基本の方針をきちんとそこに追加しようということだと思います。下の青い部分は、名称はアクションプランと変わっていて、具体的事務事業として、しかも4年単位で毎年ローリングを

かけるというふうに大きく変更しようとしていきます。

私は、これはいい意味で大きな変更点と理解いたしました。市長、この構成を変更しようとするねらいは何ですか。

○田辺 一城市長 まず、基本構想のところを従来よりも少し厚くするということが大切だと思いました。一方で、今回の大きなポイントは、先ほど最初の答弁では実効性、弾力性、即応性という言葉を使いましたが、そのアクションプランの部分だと思えます。毎年ローリングをかけるというところはですね、やはり社会情勢とか経済情勢の変化が、かつてと違って、いろんな複合的な要因が重なりがちが多くて、いろんな事象が変化しやすかったり、一般に言われるのは社会の変化が急速になっているとの認識も私は持っています。長期計画を立てるに当たっても、10年ガチガチのままということではなくて、毎年、もちろんこれは予算も連動してきますが、検証を加えながら長期計画のあるべき姿に向かうというあり方が望ましいという判断のもとに、この二層構造、アクションプランのローリングという構成にさせていただきます。

従来の基本構想、基本計画を改める

○奴間 健司 むしろ基本構想を厚くするというところに私は注目していま

す。これまでの基本構想、都市イメージというのは、どちらかというとい総花的で、絵にかいたもちではないかという意見も多くありました。

また、それを実現するために何を優先するのかということも明確でなくて、すべての政策を全部書いてある分厚い本になっているという印象でした。これを思い切って改めようというのが、今回大きなねらいではないかと受けとめて質問していますが、どうでしょうか。

○田辺 一城市長 もちろん議員の御指摘も共有をしています。

○奴間 健司 2031年になりますよね、この第5次目標、そのときにあるべき姿を想定して、それを実現するための政策を選択、集中していこうと、まさにバックキャスティング。これもなじみがまだないんですが、それが前提の基本構想だと思いますが、これも共有しているという答弁でしょうか。

○田辺 一城市長 今解説いただきましたように、未来のある時点の、つまり総合計画の到達点、こうしたものに対して今はどうあるかということを中心に振り返る、こうした営み、バックキャスティングですね、こうしたことをやっていけるようなしつらえにする必要があるということで、こうした構成にさせていただきます。

○奴間 健司 それを裏づけするものが、私は財政計画とか人口フレームだと思いますが、答弁では検討ということとどまっていた。そこでこの問題を取り上げたいので、画面をお願いいたし

就任前のことですが、どう思いますか。
○田辺 一城市長 まだ確かに県議の時代ですけれども、政策決定過程の数字ですから、このようにさせていただいております。

中期財政見通し（中期財政見通し） (2019年度～2023年度)

(2019年度～2023年度)

2018年9月25日の庁議に提出

項目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
収入	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
支出	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
収支差	0	0	0	0	0

○奴間 健司 それは理解しています。この時点で、収支は成り立っていたということでもいいですか。

○吉村 博文総務部長 返す返すで申しわけないんですが、その内容につきまして、政策形成過程ということで、お示しはできないという

ます。

基本構想に財政計画を盛り込むべき

これは先日、情報開示請求で私が入手した古賀市の2019年度から2023年度までの5年間の中期財政見通しです。昨年(2018年)9月25日の庁議に提出されていました。内部情報ということでご覧のように真っ黒です。今回、私は真っ黒なことを批判しようとしたのではありません。私は、この資料を得て、こうした検討が庁議で行われていたということがわかったこと、これが収穫です。おそらく黒塗りにしたのは、支出が収入を上回っている、つまり収支が成り立たない見通しだから公表できないというのが実際ではないかと思うんです。市長、

状況でございます。

○奴間 健司 結局裏づけがまだできていないと思います。私はこういう資料があったということはよかったと思います。今後は、公表するかどうかではなくて、これからの優先すべき政策を実行できる裏づけとして市民に約束していただきたい。議会の議決対象である基本構想の中に(財政計画を)きちんと盛り込むべきであると指摘しておきます。

次に、SDGs、持続可能な開発目標です。市長はあらゆる場面でこれを取り入れていくと答弁しました。具体的にどう反映するんだろうかと考えました。これは、SDGsというのは、御存じの方も多いと思うんですが、貧困をなくそう

とか、すべての人に健康と福祉をとか、安全な水とトイレを世界になど、世界を変えるという 17 の目標とされています。2015 年、国連持続可能な開発サミットで採択されております。

まだまだ馴染みがないかと思いますが、市長、大事なポイントなので少し解説的に、ここは雄弁に語ってもらって結構ですので、よろしくお願いします。

○田辺 一城市長 SDG s、ここにおられる皆さん、また行政に携わっている者、政治に携わっている方々は、結構もう浸透はしてきているものだと思いますけれど、市民社会の皆様、一般にですね、じゃあ、浸透し切っているかという、議員もおっしゃったように、なかなかまだ認知されていない部分もあるんだろうと思っています。2015 年ですかね、国連サミットでこれが採択された。何でこれを古賀市の行政運営、またこれからの総合計画に手法を取り入れていくかという、世界で宣言したって、取り組むのはその地域に生きてる我々一人一人だし、一番最小単位の行政体である市町村だと私は思っています。ですから、結果として世界に対して影響を与えるんだけれども、実行するのは市町村がまず原点にあると思います。ということは総合計画に盛り込まなければならぬと考えていきました。議員御自身は御存じ

だと思えますけれども、やはりそうした大前提があって、今回、SDG s を入れていきたいと考えているのは、やっぱり世界、あんまりこれまでできてないと思うんですけど、世界から日本を見て、九州、福岡県、古賀市と、こういう俯瞰した物差しというのが、このSDG s の基本目標を考えていく上で得られると、それが政策展開につながられるというメリットがあるだろうと思います。

これまでのですね、日本でいえば高度経済成長などでしょうけれども、どうも、例えば経済と環境とかですね、対立するような見方をされるころがあったと思うんです。ここで言うと、経済、社会、環境ですね。こうした、そもそも二律背反的にとらえられていたものを、実は統合的にとらえ直すことで、政策の相乗効果というのも上がっていくんじゃないかという考え方が、SDG s を取り入れるもう一つの大きなメリットではないかと。もう一個は、先ほど申し上げましたバックキャストिंगの手法というのは、まさにSDG s の求めているというか、やらんとするところの一つなので、こうした大きくは三つの視点から、地方自治体が自治体経営上今取り入れるに非常にふさわしい概念だと思っております。

○奴間 健司 大事なところなので、具

体的に理解したいので、画面をお願いいたします。



これは、策定方針の中で書かれている3点、SDGsの視点を取り入れるために、①経済、社会、環境の3側面の統合的取り組みによる相乗効果の創出②市の施策とSDGsのターゲットとの関連づけを行う③バックキャストイング手法による事業構築を行う。今市長がお話しした点です。

総合計画や市政運営を変えるSDGs

一見目新しい言葉ですが、私は、やはりこれを見ると、これまでの総合計画や行財政運営を大きく変えようというチャレンジ精神といいますか、意気込みを感じるんですね。これはさつき、内閣府が進めている説明資料の中に同じ言葉があるんで、そのコピーかもわかりませんが、しかし、これをやろうということ策定方針に盛り込んだということは画期的なことだと思いますが、市長、いかがですか。

○田辺 一城市長 もちろん意欲的に

でないと、これを取り入れていくということは、相当決意を持ってやらないとですね、いけないと思っています。先駆的かどうかということ、もう既にSDGsの先進自治体も北九州市などありますので、本市が特別に先進的とはもう声高らかに、うちSDGsやるんだ、

策定過程にこうやって取り入れていくんだということが、新聞で見ると見出しが立って、どーんとすごいねということのレベルではないと思います。ただ、これを総合計画に盛り込むということは、まだそんなに広がっている状況ではないと思います。そういう意味ではチャレンジングな話ではあると思います。

○奴間 健司 例えば、SDGsの14番目、海の豊かさを守ろう、海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用するとなっています。古賀市も海に面しております。そのために、2025年までにあらゆる種類の海洋汚染を防止し大幅に削減するなど、七つのターゲットがぶら下がっています。先日閉会したG20でも、プラスチックごみが大変大きなテーマになりました。日本政府の取り組みは非常におくれているんですが、日本の1人当たりのプラスチ

ックごみ排出量は、実にアメリカに次ぐ世界第2位とされています。2030年には、おそらくレジ袋の有料化はおろか、プラ製品の使用禁止という社会も想定されます。

例えばこれを総合計画に関連づけるとなった場合、古賀市としてやるべきことがいっぱい出てくると思います。例えの話で恐縮ですが、イメージを膨らます意味で市長の想い聞かせてください。

○田辺 一城市長 この海洋汚染とプラスチックごみの問題は、このG20におきましても日本政府としてですね、非常に重視しているということも認識をしています。

一つ例として今挙げていただきましたが、どう盛り込むかというのは、なかなか即答しづらい。なぜ海洋汚染と地方自治体、現場の取り組みがつながるかという、プラスチックごみを減らすというのは、プラスチックの製品をつくっている企業さんもこの社会にはたくさんあります。ですから、企業の生産のあり方へのアプローチになってくると思います。もちろん本市にもプラスチックに係る生産物を製造されている企業さんがいらっしゃる。ですから、こういったところを今の世界の潮流と、それに呼応している日本政府の姿勢、そして地域社会で我々もそれを共有するのならば、

同じエリアで生きている、活動されている企業さんともそうした認識を共有することだと思えます。本市の企業さんとして行政としても連携をしていく必要性がとて出てくると、政策形成するに当たってのですね、ということなんだろうと思います。

○奴間 健司 まさにこのSDGs 17、共通していることは、例えば行政内部では一つの課だけで進める問題でもはやなくなってくる。そしてまた、今言われたように市民、企業、行政、議会、総合的に取り組むことが求められてくるのではないかと思います。そういう意味では、新たな段階に入っていくんじゃないかと私は期待しています。この問題は、今後さまざまな場で具体的に学習、議論する必要があると認識しております。

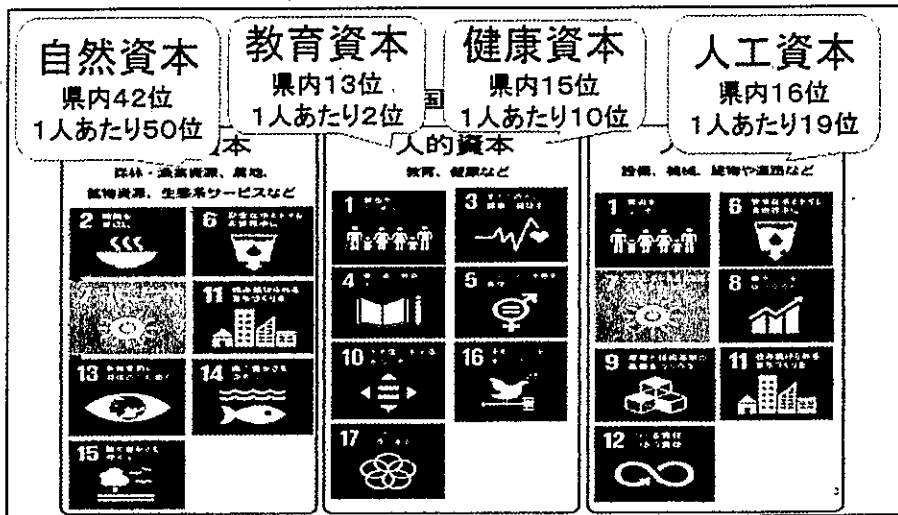
そこで、じゃあ、SDGsを取り入れるのはよしとした場合、どうやってその効果を評価、測定するのかという問題が出てきます。今までみたいに掲げた目標が達成できてなくても、あまり問わないということは許されないと思うんです。その辺はどう考えますか。

○田辺 一城市長 当然ですね、従来のようにですね、やっぱり行政として取り組みますんで、企業もそうですけど、数値による効果、目標の測定というのがとても大事になると思います。それはもう

皆様からいただいている税金を使わせていただく以上ですね、そこはもう当然不可避だと思っています。そこは、これまでの行政の効果測定指標というのは大事だと思います。

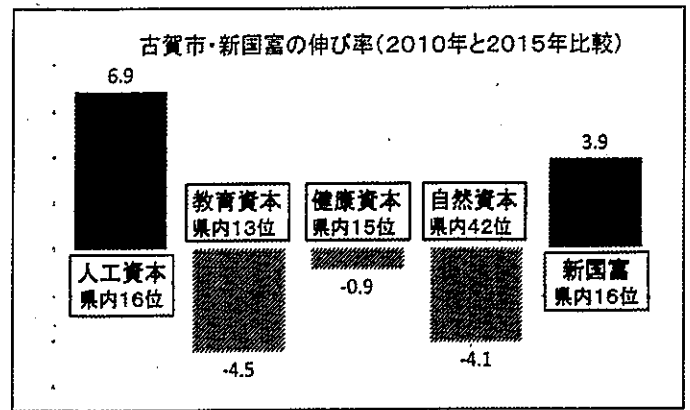
ただ、SDGsの手法をもってして、こういった効果測定が可能かということは、もう少し個別の具体的な政策との関連とかも考えていく必要があると思います。そこは総合計画を策定する中で考えていきたいという部分だと考えます。効果測定に役立つ新国富指標

○奴間 健司 そのために一昨年12月に、私初めて新国富指標を取り上げました。画面をお願いします。



新国富指標とは、GDPだけでははかれない富を、人工とか人的、自然、それぞれの資本として把握します。それぞれに17のSDGsが関連づけられています。九州大学都市研究センターが全国の市町村のデータを公表しています。こ

のデータを使って古賀市を見ます。



左側の赤い棒グラフは、人工、これはインフラですが、福岡県内では16位、人口1人当たりでは19位ですが、2010年から15年の伸び率はプラス6.9。教育資本は県内13位、1人当たりは2位と非常に高い位置にあります。5年間の伸び率はマイナス4.5。健康はマイナス

0.9。一方、自然資本は農地とか森林ですが、インフラ整備すれば当然そちらを犠牲にしますので、県内42位、1人あたり50位、伸び率はマイナス4.1となっています。総合的には16位で、伸び率はプラス3.9です。確かにインフラ投資は進んだ、

しかし、将来の豊かさを考えた場合、大きな基準となる教育とか自然の指標を見るとマイナス傾向になっている。持続可能性は、この分野では低下しているということになります。そういった分析をもとに、じゃあ、どこに投資するのかを

選択する意味で、この新国富指標というのが役立つのではないかというのが私の見解です。今後の課題として取り上げていますが、市長、いかがでしょうか。

○田辺 一城市長 新国富指標についても勉強もさせていただいております。この持続可能性をはかる、まさに今はかっていたんだと思うんですけれども、手法として研究が今はなされているものだというふうに認識をしております。非常に研究の材料としては、今御提示いただいたものはそうなのかと思う部分もあります。しかし、本市が総合計画の策定において、この研究途上にあるこの新国富を取り入れるということについては、ちょっと慎重に考える必要もあるのかなと現段階では思っています。

○奴間 健司 福岡県久山町、福岡県宮若市、山口県防府市では既にこの新国富指標を取り入れた総合計画の策定とか、一部予算化も始まっています。市長も御存じだと思うんです。ぜひこれは今後、庁内で部長と協議してもらってですね、どう必要性があるか検討していただきたいんですが、いかがでしょうか。

○田辺 一城市長 勉強させください。相当の力を入れるべき総合計画

○奴間 健司 改めてお伺いしますが、今回明らかになった総合計画の策定計画、非常にすばらしいと思います。しか

し、これを理解し、行動するには、相当に力を入れて、全職員、そして私たちも議論しないと立ちおくれそうです。そういう意味では 2019 年度、この分野に相当の力を入れる必要があると思います。市長の認識をお聞かせください。

○田辺 一城市長 これ、何事も走り出しはとても重要ですから、まず当然、もう始めていますけれども、庁内でこの策定方針をしっかりと、一人一人の職員に落とし込むということがまず大事だと思います。その上で、市民の皆様にもうこれは公開はさせていただいていますけれども、この策定方針、というかそもそも総合計画がなぜ行政としていいのか、そもそも総合計画の存在というものすら御存じない方もいらっしゃると思いますので、こうしたことをしっかりと市民の皆様と共通認識化するというのが、この 2019 年、とても大事なことだと思っています。

当然、対話集会のような手法でこの総合計画に特化したものを地域単位でしっかりやっていきたいと思っております。みんなを巻き込んで、2020 年度が始められるように全力で真剣に取り組んでいきたいと思っております。

○奴間 健司 そこはしっかり確認をしておきたいと思っております。

2番目のテーマ、道の駅に移ります。既にこれまでに6人の議員の方々が、この問題をこの一般質問で取り上げています。多くの論点が浮き彫りになったと思います。特に財政見通しが大きかったと思うんですが、現時点で市長はどんな思いを抱いて受けとめていますか。

「道の駅」の論点	
候補地の是非 コスモス広場	110万人11億円 想定は妥当か
22億6千万円 財政見通し	市の意思形成 選択と集中

○田辺 一城市長 本定例会、この本会議、もしくはその前段の常任委員会におきましても、非常に重要な問題意識、そして論点を提示していただいていると認識をしています。

○奴間 健司 21日にはタウンミーティングが予定されています。その場でぜひ、議会の中で多くの議員から指摘があり、議論をしたということを紹介していただきたいと思いますがいかがですか。

○田辺 一城市長 事実事実として何事も伝えている人間なので、そういう場面は当然出てくるとは思います。

○奴間 健司 12人の質問者で半分の6人が取り上げるということは、極めて異例の事態です。残念ながらテレビや新

聞は、このことを報道してくれません。市民は一体、議会はどう議論してるのかと思ってる方はいらっしゃると思いますので、市長の口からぜひ伝えていただきたいと思います。

この道の駅は、先ほど答弁があったように、市長選での公約でもなく、いい悪い、可否についても言及しなかったということです。その理由は、前市長を配慮して触れなかったということなのか、そもそも優先度が余り高くはないという意味なのか、お答えください。

○田辺 一城市長 私がですね、市長選挙立候補時点において、この道の駅の検討状況、またその背景というものが、その道の駅の整備に向けたですね、取り組みの内実、つまり材料をですね、その可否も含めてですね、判断する材料がその時点でないのですね、これについていい悪いということは、政治家として言えないと思いましたが、道の駅についての言及は選挙時点ではしておりません。

ただし、産業力を強化する必要性はもちろん持っていましたが、その中で産業力強化の大きな要因として、観光や物産の拠点というものを構想していくという必要性は持っていましたが、それはしっかりと選挙戦でも申し上げていたところです。

○奴間 健司 市長は、むしろ持続可能な地域社会づくりという方向性は大きな公約として強調していたと思います。総合計画策定方針もその考え方が貫かれています。もしこの時点で道の駅を整

備すると最終判断すると、スケジュール表によると開業は2023年、まさに第5次のスタートの年、2年目ぐらい。そうすると、せっかく市長の1期目4年間の中で、この事業が否応なしに中心的な事業になり、他の大事な事業を制約

することにならないか。箱物の実績は残せるかもしれませんが、他のより優先すべき事業に影響が出ないかを心配しますがいかがですか。

○田辺 一城市長 御指摘いただいたとおり、2023年度、次期総合計画の2年目からになっていきます。当然その10年に影響を与える事業になってくると。持続可能なというキーワードを私も言って、議員もおっしゃっていただいていますけれども、当然ですね、この町の持続可能性に寄与するものでなければならぬということは念頭に置いて、整備をするか否かということ判断しなければならぬと思っています。

○奴間 健司 具体的に予算面から見

ていきます。画面をお願いいたします。

これは、むしろ道の駅のいい悪いの議論ではなくて、予算編成がこういうやり方でされるのかという問いかけと受けとめてください。

「道の駅」整備予算

3647万9千円

市長

整備するかどうか決めていない。
もしやるとした時に予算がなければ実施が遅れる、予算を計上しておけばスムーズに実施できる

当初予算に道の駅整備を前提として3,647万9,000円が計上されました。市長の説明は、整備するかどうか決まっていな、決めていない。もしやるとしたときに予算がなければ実施がおくれる。予算を計上しておけばスムーズに実施できるという説明でした。これは、先ほど議会も議決したというふうに言っておりますが、予算編成の基本として、果たしてこんな考え方が通用するのかどうかは改めて問いたいたいんですが、正しいとお思いになりますか。

○田辺 一城市長 本件について、こうした手段でやるべきだと私自身が判断したところです。

○奴間 健司 査定の過程で、この予算

は整備するかどうか決まってから補正予算を上げるべきではないかという意見は、執行部の中からだれ一人あらわれなかったということですか。

○田辺 一城市長 当然、あらゆる案件そうすけれども、査定の段階においてはさまざまな意見は出ます。出ますけれども、その意見を出し合った上で、みんな合意して、最終的には私が判断をしているところです。

○奴間 健司 これは、総務部財政課長に今までの私だったら質問するんですが、きょうは聞きません。課長を苦しめるような質問をしたくないからです。市長の政治責任として、県議を8年近くやった方が、やるかやらないかも決まっていな事業に予算をつける、そして、その査定を通すなんてことはあり得ないと私は認識しています。これは平行線ですか。それとももう少し検討して、また後で、別の機会に答弁いただけますか。

○田辺 一城市長 奴間議員の御見解として受けとめさせていただきます。

道の駅整備関連予算は減額補正すべき

○奴間 健司 これは、明らかに誤りであるということ認め、速やかに減額補正すべきだ、これが財政予算編成の基準、古賀市の常識を回復することに私はつながると確信しています。そのことは、きょう強く指摘をしておきます。

さて、この暫定案なんですが、果たしてこれは市の案と言えるのかどうか。コンサルタントが市に提出したのは3月末です。そして、その3月の日付で、暫定案という名称で私たちに配られました。コンサルの案をそのまま市の案であるかのように配付したと思われませんが、いかがですか。

コンサル案がそのまま市の暫定案か

○田辺 一城市長 この案の作成の主語は市です。コンサルがつくったものをただただ受けとってお示ししたという認識には立っていません。

○奴間 健司 庁議の会議録を調べました。道の駅が庁議の議題になったのは5月13日です。その日に暫定案が資料として提出されています。先日の一般質問で、市長はいの一番に議会に報告すべきということで、5月7日に前期の議員の皆さんですが、説明したと述べています。しかし、肝心の庁議に提出したのはその6日後、5月13日です。なぜいの一番に庁議で報告させ、精査しなかったんでしょうか。職員の皆さんは、果たしてこの暫定案を御存じなのかと疑問を抱きますが、明快な答弁をお願いいたします。

意思形成過程がでたらめではないか

○田辺 一城市長 庁議はまず意思決定機関じゃなくて、私が意思決定主体で

あります。この暫定案をつくるに当たって、当然関係する幹部はもちろん、関係する人間とは形成過程においても情報を共有し合ってきておられますので、問題があるとは考えません。

○奴間 健司 総合計画策定方針は、経営企画課から熱心にその都度庁議に提出されている記録が残っています。なぜ

3月末に出されたもの（道の駅基本計画案）が、5月13日の庁議まで議題にしなかったのかは理解できません。

○田辺 一城市長 議題にしていなかったのはなぜか、というか、本暫定案をつくるに当たって、その形成過程で関係職員はしっかり関与をして、内容を共有し

ておられますので、（庁議の議題にしなかったことは）問題があるとは考えていません。

○奴間 健司 今、回覧で調査票が回り始めています。この意見募集にしても、調査票の設問内容にしても、市長と担当課の間だけで決めてるんじゃないですか。しかも、これはですね、そもそもやる気はなかったことだから予算措置ないんです。だから、回覧にはですね、コピーとって使ってくださいになっています。こういうのは後手後手じゃないですか。

○田辺 一城市長 なすべきことをなそうということで、タイムスケジュールの中で市民の皆さんに意見を募っているということは適切だと思っています。

○奴間 健司 意思形成過程が非常にでたらめだということを私は指摘しています。

画面をお願いいたします。

2018年9月25日の庁議に提出
補足資料（内部資料）
中期財政見直し

古賀駅東口
道の駅
小中空調

市長はですね、一般質問で、ありがたいことに古賀市には財政負担が大きな事業がたくさんあると。これを踏まえて、道の駅について最終決定する。古賀駅東口開発は一丁目一番地であると強調しています。この画面は、昨年9月25日に出された中期財政見直しを補足する資料で、非常に興味深いことがわかりました。

古賀駅東口と道の駅と小中学校空調整備の財政見通しが資料として提出されました。これも真っ黒ですから、数字はわかりません。このときは一体どういう結果になったんでしょうか。三つとも

やれると判断したのかどうか。

○田辺 一城市長 その時点ですね、当然行政、企業もそうでしょうけれども、こういうことをやるべきだ、こういうことをやってみようかとか、そういう検討をしていきますよね。ですから、その時点において、例えば空調、ありましたよね、例えば財政見通しの中で小中の空調整備、あれは9月ですよ。9月の庁議。ですから、実はあの空調整備も、私の認識では、その9月時点ではですね、この市は普通教室につけていくということ、しかもそれは3カ年でつけていくという前提の見通しになっていると思うんですよ。ところがどっこい、その後、国の姿勢も変わったので、補助も使えるという仕組みができたから、9月から、正確にはわかりませんが、数カ月、少したった段階で、結局、国の姿勢が変わったから市としてもですね、全小中学校、11小中学校に普通教室は1年でつけよう、さらに私が市長に就任してからは検討を指示して、特別教室の音楽室などにもつけようと、この数カ月で事態は劇的に変化しているというものです。だから、その時点における検討の材料として、そうした財政の、頭を整理するためにですね、存在しているものだと思っています。

○奴間 健司 市長の雄弁が悪いのは、論点が別のところにいく。では聞きますけ

れども、現時点で同じように、今お見せしたような財政見通しの内部資料はつくっていますか。いかがですか。

○田辺 一城市長 中期財政見通しにつきましては、私が市長就任後に1月の議会で表明いたしましたように、議会の皆様、市民の皆様と共有できるように鋭意準備を進めているところです。

○奴間 健司 道の駅については財政見通しを精査してると答弁しています。だれがどのように精査していますか。そして、その結果、中間結果でもいいんですが、21日のタウンミーティングで報告できますか。

○田辺 一城市長 21日のタウンミーティングに示せるかどうかと言われると、ほかの事業との関係もありますから、21日、今週金曜日ですので、事実上難しいと考えます。

道の駅に関する財政見通しはあるのか

○奴間 健司 現時点ではどこまで財政見通しについて精査が進んでいますか。財政課がやっているんですか。

○柴田 武巳財政課長 中期財政見通しにつきましては、決算の結果、それから経営企画課が行います中期事業計画で上がってくる事業の集計結果をもとに作成しますので、実際の作成時期としてはもう少し後になろうかと考えております。

○奴間 健司 ずばり市長にお尋ねしますが、もし仮に道の駅を着手すると判断したら、一丁目一番地である東口の整備、着手できますか。

○田辺 一城市長 東口を中心とした古賀駅周辺の再開発が一丁目一番地ということには揺らぎはありません。これを必ず着手し、やり遂げるんだと、やり遂げると言ったら10年、20年になってきますけれども、必ずこれを推進していくんだという強い決意を大前提としながら、整備の可否について判断したいと考えています。

住民サービスカットは絶対避けるべき

○奴間 健司 私、そこは余り追い込むつもりはないんですけど、心配しているのは、もし道の駅もやる、東口もやるとなった場合、小中学校も決定してます、エアコンですね。そうすると、市独自の教育予算までカットされたり、学校の統廃合なんかも含む公共施設の統廃合、あるいはさまざまな福祉サービスまでカットされる。こういう事態は絶対避けなきゃいけない。それは十分計算に入れて判断されると思うんですが、財政見通しは市長が最終判断する上で、私はかなり大きな比重を占めると認識していますがいかがでしょうか。

○田辺 一城市長 今議員おっしゃっていただいているですね、さまざまなや

らなければならぬことが確かにあります。ありがたいことにとあえて言っていますけれども、これから本市はそういった意味で伸びしろがある町である。ですから、そうしたことをしっかりと実行していく中で、ただし、財源や借金ができる範囲は限られていますので、その範囲の中において総合的に優先順位を適切な形で図って、とっていかねばならないと思っています。今議員が御懸念なさったようなこと、今市民の皆様提供させていただいているサービス、必要なものについて低減はされないようにということは大前提として考えたいと思います。最終的には優先順位づけに当然なってくると思います。

○奴間 健司 総合計画策定方針をめぐる議論で、SDGsの視点を入れる。あるいは、バックキャスト手法で事業構築する、斬新な考え方、私は心からこれを評価しています。

一方で、この道の駅の検討方法は、どうもこの三つの視点からずれていてですね、いかにも従来の発想だなと思います。問題意識、共有はできませんか。

○田辺 一城市長 議員おっしゃりたいことはよくわかるんですけども、やはり経営する立場ですので、例えば人が変わったから、がらがらぼんで自分が考えていた世界観がいきなり全部現出す

るということは、当然この社会においてあり得ないと思っています。というか、そういうものでは特に政治行政はないと思っています。ですから、当然、引き継いだ、私が市長に就任した段階で置かれているさまざまな現実というもので継続しなければならないものも多々ありますので、それをしっかりと引き継ぎながら、そして自分が、私自身が行政の長として描いているビジョンというものに、そうした継続しているさまざまな案件も取り込んでいくということが大事だと思います。ですから、本件がどうかということは置いといてもですね、そういうそもそも市長が変わって、さまざまな案件がある中で、言葉が難しいんですが、融合させていくという作業は、1カ月、3カ月、半年でなし得るものではないと思っていますので、そこをうまく調和させようと今努力をしていると御理解いただきたいと思います。

○奴間 健司 きのうまでの質問で、例えば指定管理料はゼロと計算しているという話が明らかになっていますね。だから、採算性がとれるだろうか。2030年を想定したときに、古賀市の人口とか農業生産者、それから今二日市線の交通量で利用者数を推定していますけど、どうなっているだろうか。あらゆる側面から、バックキャスト手法を当てはめ

た場合、心配だなという気がするんですね。ですから、あつたらいいのではなくて、本当に将来の豊かさ、買い物難民もふえることでしょう。それを考慮した総合的判断が求められると思うんです。

そういった視点も持ってですね、従来の行政の継続性だけではなくて、今せっかくやろうとしている新しい視点、それから見てどうなのかという判断をしていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○田辺 一城市長 何事においてもバックキャストの手法というのは、これからそれを総合計画に生かそうとしているわけですから、本市政運営においてもあらゆる案件についてそうした視点は大切にしていかなければならないと考えています。

道の駅は整備しないという判断を

○奴間 健司 市長は、これまで2年以上もかけて検討してきたんだからということをつらつら言われます。しかし、私は、この夏の時期に一定の区切りをつけたほうがいい、区切りをつけるということは、暫定案に基づいた整備方針はしないほうがいいという意味です。2年以上かけた時間とか予算は、決して私は無駄にならないと思います。むしろこれから続く持続可能な新しい古賀市のまちづくりに、選択の幅を担保してくれると

いと思います。いかがでしょうか。

○田辺 一城市長 この2年間で、当然検討に際してですね、予算を使わせていただいているというのが今の古賀市の行政の立場ですね。千数百万円使ってきています。今の暫定案の成果物に今行き着いているという事実がある。今、私の判断は夏ごろにさせていただきませけれども、整備を今しないという過程で議員御発言されましたが、仮にですね、整備をしないと言ったときに、じゃあ、これまでの営みは何なのかというのは、当然私も議員でしたから、論点として出てくると思います。つまり、この2年間やってきた、税金を投じてやってきたこの営みというのは、仮に整備をしないという判断をした場合でも、その後のまちづくりに生かさなければならぬということとは当然だと思えます。

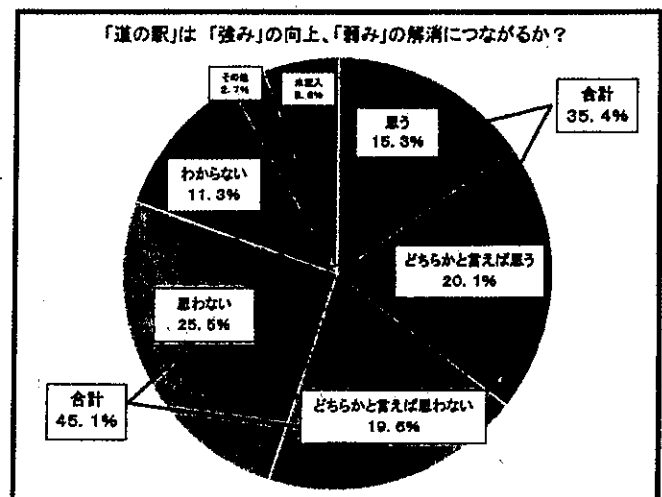
○奴間 健司 候補地に浮上した地域もですね、別の手法で開発っていうこともあり得ると思えます。

実はきょう、冒頭に肩の力を抜くと言いながら、余り抜けなかったかなと反省しておりますけれども、しかし、私はきょう初めて市長と質問して、いろんな意味で成果があったなと思っております。ぜひお互いに刺激を与えたり、ヒントを得たりという議論になればよかったなと思うんですが、最後に市長の感想をお

聞かせください。

○田辺 一城市長 本定例会において、多くの議員の皆様からこの本会議の場ですね、直接に、道の駅が確かにテーマとしては多かったですけれども、さまざまなテーマで御提起いただくということは、本当に私にとって重要な、私というか、市政、行政全体として重要な機会だと思っています。そうした意味で、今このおよそ1時間の議員とのやりとりというもの、そして、この3日間にわたる本会議における議員の皆様とのやりとりというのは、とても貴重で、今後のまちづくりにつなげていくべきものが多々あったというふうに認識しています。

○奴間 健司 ありがとうございます。終わります。



「道の駅」意見募集に373人が応募
そのうち292人が自由記述の意見提出
市民の関心の強さを示した

<編集後記> 私は一般質問の全記録を冊子にまとめてきました。12冊目になります。今回は田辺一城市長との初めての一般質問の記録です。総合計画と道の駅がテーマでした。

私は、毎回の一般質問でまちづくりにとって重要なテーマを取り上げています。市民の声や現状把握、先進地の調査研究等を踏まえ、市長との政策論争を積み重ねています。市民にとって必要な政策の実現につなげていきます。また、これから市議に挑戦しようという方や職員として頑張っている方々の「参考書」になれば幸いです。ご感想、ご提案をお願いします。

「2019.6.19 ぬま健司の提言詳報（第12弾）」

発行 2019年8月30日

奴間健司事務所 〒811-3113

福岡県古賀市千鳥 2-3-7 安部ビル 103

電話・fax 092-944-2639

ぬま健司のプロフィール

- 1952年4月17日生まれ。
- 千葉大医学部中退。
- 1995年町議初当選。2018年市長選に挑戦。2019年市議選で6回連続トップ当選、現在7期目。
- 議会運営委員会委員長、政策推進会議会長、文教厚生常任委員。
- 2011年5月～2015年5月、市議会議長として議会改革に取り組む。早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革度調査で古賀市議会は2014年度から3年連続九州沖縄で第1位と評価。
- 千鳥小の千鳥が池自然観察会をゲストティーチャーとして支援。
- 「地域医療と市民を結ぶ会」（大岩俊夫代表）の事務局長。
- 妻（精神保健福祉士）、息子（義肢装具士・尼崎市在住）、娘（管理栄養士）の4人家族
- 趣味は写真、コカリナ演奏など。

ぬま健司の約束

約束① 今後4年間は将来ビジョンを描く大事な時。市民とともに財政見通しを共有し優先課題を選択します。

約束② 健康づくりは私のライフワーク。「子ども健診の導入」と「在宅療養サポート」に奔走します。

約束③ 公共交通は人間の血管と同じ。気軽に外出できる公共交通実現をめざします。

約束④ 「道の駅」は計画内容を慎重に検討します。

ぬま健司が心がける「3つの実践」

変化する議会構成、県との関係
田辺市長の市政運営を見守り
市民本位の市政実現をめざす

豊かな学び
対話の場作り
くらし・地域
身近な課題

ぬま健司が力を入れる「4つの政策」

①健康・地域

- ★特定健診・がん検診の自己負担軽減
- ★子ども・若者対象の健診導入
- ★保健師配置の「地域支え合いセンター」
- ★医師・看護師による在宅医療体制確立

②子ども・若者

- ★保育士人材確保
- ★学校トイレの改修促進
- ★若者会議設置、予算反映
- ★図書館開館時間の延長

③環境・産業

- ★生ゴミ分別、バイオマス発電
- ★食・健康経営・災害対応で企業との連携
- ★路線バスと小型自動車による公共交通網

④情報・対話

- ★行政・議会の情報発信
- ★議場での市民の意見表明
- ★ワークショップまちづくり

領収書



日付: 2019年12月01日
領収書番号: R-1911242671

奴間 健司 御中

ラクスル株式会

〒141-0021 東京都品川区上大崎2-24-9 アイケイビル 1F
tel: 03-4577-9200 mail: contact@raksul.com

¥27,733-

但し 商品代として
上記金額を正に受領いたしました。

ご注文番号	商品名 / 商品仕様	部数	出荷日	金額
1911242671-01	(190906奴間健司一般質問全文記録14ポイント.pdf) 冊子・カタログ,中綴じ冊子,左綴じ,24ページ,A4,表紙(両面カラー 光沢紙(コート) 標準: 90kg 表面加工なし),本文(両面カラー 光沢紙(コート) 標準: 90kg)	200部	2019年 12月1日	¥30,733

注文内容:	商品:	¥30,733
注文合計:		¥30,733
キャンペーン値引き:		¥-5,521
消費税:		¥2,521
ご請求合計金額:		¥27,733

お支払い方法: クレジットカード

ぬま健司の提言詳報(第13弾)

2019.9.6

一問一答 田辺市長との一般質問



- ★「対話は人づくり」の視点を大切に
 - ★庁議決定書、3役会議事録の作成を
 - ★「道の駅」判断、反省と教訓を
 - ★24時間365日の在宅医療の対応
 - ★子ども対象の血液検査導入を
- 2020年度、一步でも前進を

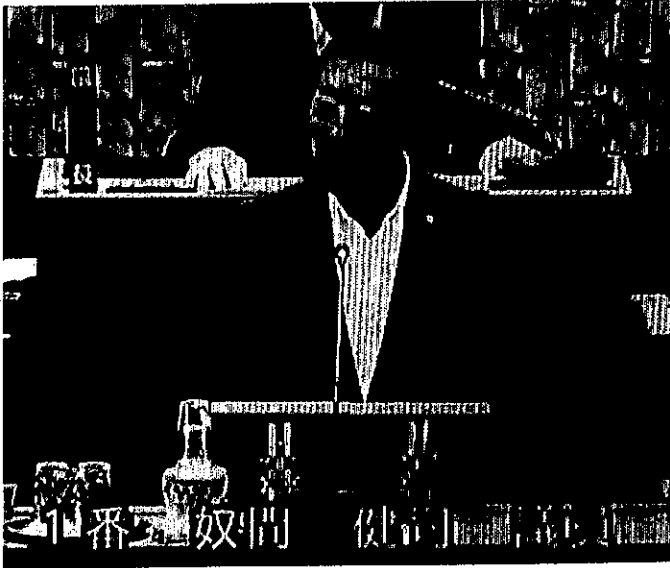
- テーマ① 基本方針や重要施策、決定過程の透明性を求める
- テーマ② 健康を基軸にした将来都市像 2020年度本格的一步を

2019年12月1日

福岡県古賀市議会議員

奴間 健司





○奴間 健司 皆さんこんにちは。会派友和（ゆうわ）の奴間健司です。

暑い夏でした。楽しい思い出をたくさん作りましたが、一方で悲惨な事故、災害もありました。被災した方々に心からお見舞い申し上げます。

戦後 74 年を迎え、昭和天皇の拝謁記公表は私にとって大変大きなニュースでした。戦後政治を検証する記録の大切さを学んだ夏でもありました。

田辺市長との 2 回目の一般質問です。昨日は新人議員の立派な初質問を聞き、大変刺激を受けました。私も初心を忘れず、精進してまいりたいと思います。

1 点目は、基本方針や重要施策の決定過程の透明化です。市長は対話を重視していますが、最終的には政治家として判断すると述べています。対話の結果が最善の判断につながり、意思決定過程が透明化されること、これらが田辺市政の下で実現されることを期待し、質問します。

1、市長の最終判断はどのようになさるのか。意思決定過程は透明化されるか。対話や市民の意見はどう生かされるか。

2、庁議や三役会の機能、政策立案、議論決定機能を高める必要はないか。

3、庁議での審議事項の決定や討議資料の準備、庁議結果の全職員への報告方法、市役所内部の風通しはよいか。

4、道の駅や宮地岳線跡地の市長判断は庁議でどう議論したのか。また、今後どう議論する予定か。

2 点目は健康政策です。道の駅も決着がつき、本来の重点である次期総合計画策定に集中することができます。健康を基軸にした将来都市像の創造をめざす点から、以下質問します。

1、次期総合計画策定で将来都市像をどう描くのか。健康基軸が時代と市民の要請ではないか。

2、健康づくり、特定健診、保健指導の評価や課題、市民への呼びかけ。

3、保健医療 2035 推進本部に期待していますが、機能しているか。

4、2020 年度施政方針、予算編成において、画期的な健康づくり施策を予定しているか。古賀版元気予報や健康ウォッチの活用もどうか。

5、24 時間 365 日の在宅医療、並びに小中学生や若者対象の特定健診の必要性、現状、今後の対策。

以上、市長に答弁を求めます。



○田辺 一城市長 奴間議員の1件目の御質問、「基本方針や重要施策、決定過程の透明性を求める」についてお答えをいたします。

1点目についてお答えします。市政の基本方針や重要施策については、庁議や関係部課協議を経て、市長である私が最終的に意思決定を行います。市政の基本方針や重要施策を決定した際には、議会や市民の皆様に対して積極的に情報発信をしていくのが私の基本的な政治姿勢であり、日々それを実践していると考えております。

ただし、意思決定に至るまでの過程では、行政内部でさまざまな観点から議論を繰り返しながら、徐々に意思形成されていくことも多く、議論の中では個人情報をはじめ、公にすることにより市民の皆様が無用の誤解や混乱を招くおそれ

もあります。また、行政内部における自由で率直な意見交換が妨げられるようなことは望ましくないと考えており、意思形成過程の情報をオープンにすることに関しましては、情報公開条例に沿った適切な対応をしていく必要があると考えております。

次に、私が就任直後から開催してまいりました対話集会などを通じて得られた市民の皆様の声は、私の意思決定において極めて重要な判断材料となっております。

2点目についてお答えします。庁議は行政運営に係る重要事項について、審議、調整及び協議を行い、市長たる私の意思決定を補佐する機能を有しております。また、三役会は要綱や規程に位置づけない任意の会議であり、行政運営や組織マネジメントなどに関し、市長、副市長、教育長が情報を共有する場であると考えております。政策立案や議論の場に関しましては、庁議だけでなく必要に応じ関係部課協議などを開催しており、意思決定に必要な情報共有や議論は適切に行われていると認識をしております。

3点目についてお答えします。庁議の付議事項は、協議構成員から提出された関係資料をもとに、総務部担当副市長、横田副市長が市長と協議、調整して決定することとなっております。なお、庁議

の資料に関しましては、従前当日配付としておりましたが、より充実した議論ができるよう、現在は事前配付するように改めております。

また、庁議における審議の結果、必要と認める事項は部門会などを通じて職員に伝達し、周知徹底を図ることとなっております。市役所内部の風通しにつきましては、基本的には問題があるとは考えておりませんが、現場からの新たな発想や知恵がより生かされるよう努めてまいりたいと考えております。

4点目についてお答えします。道の駅につきましては、市政に関しとりわけ重要な事項でありますことから、私が就任以降、全部長に対して各課の意見の取りまとめを指示し、集約された意見は庁議で共有をしております。また、タウンミーティングや意見募集の結果などの情報も共有をしており、こうした材料をもとに最終的な私の意思決定を行っております。

宮地岳線跡地につきましては、私が就任以降、庁議の議題には上がっておりませんが、担当部課との打ち合わせや必要な情報共有は随時行ってきております。

続いて、2件目の御質問、「健康を基軸にした将来都市像 2020 年度本格的な一歩を」についてお答えします。

1点目についてお答えします。次期総

合計画における将来の都市イメージについては、今年度から検討を開始しているところですが、持続可能な都市に向けた経営方針で三つの大きな柱の一つとしてお示しをしておりますとおり、健康という観点は大切な要素の一つであると考えております。

2点目についてお答えします。市民の健康づくりについては、ヘルスアップぷらんに基づき、健康づくり等関連サポーターなどと連携をしながら進めており、ヘルス・ステーションが平成 30 年度に新たに3カ所設置されるなど、広がりを見せておることから、一定の効果が出ていると考えております。また、特定健診の課題としましては新規受診者数が少ないこと、保健指導につきましては、有所見者に対する未治療者対策が課題と捉えております。市民の皆様に対しましては、古賀市健康チャレンジ 10 か条を軸とした望ましい生活習慣を身につけ、その確認の手法の一つとして特定健診を受診することを呼びかけており、今後も継続して取り組んでまいります。

3点目についてお答えします。保健医療 2035 推進本部につきましては、団塊ジュニアが 65 歳以上に到達する 2040 年を迎えるに当たり、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現に向け、国の方針を踏まえ、市としての課題を共有し、

現在その解決に向けて医療や介護における本市のデータをもとに、短期的、中長期的な視点を踏まえながら協議を行っており、有効に機能していると考えております。その上で、今後につきましては協議内容をもとに施策につなげていきたいと考えております。

4点目についてお答えします。本市の健康づくり施策としましては、ヘルスアップぷらんに沿って、食べる、動く、守る、楽しむの四つを柱とし、生涯を通じた市民の皆様の主体的な健康づくりをめざして進めております。また、特に無関心層につきましては、健康に興味を持つきっかけづくりや自発的に健康づくりに向けて望ましい行動を選択する仕掛けが重要と捉えております。その上で、次年度の施策につきましては、これまで本市で取り組んできたヘルス・ステーションや歩く王決定戦などの事業の成果を十分に生かしながら、一層充実したものとなるように今後検討していきたいと考えております。

なお、本年度の保健指導において、県が提供している「ひさやま元気予報」は試行的に体験していただく予定としており、「ウォッチ」の活用につきましては、今後の行政施策を考えるに当たって参考とさせていただきます。

5点目についてお答えします。24時間

365日の在宅医療については、通院困難であり御自宅での診療を望まれる方にとって非常に喜ばしいことと考えております。本市においても、在宅医療を中心とした診療所が9月1日（正しくは9月2日）に開院されており、市民サービスの向上に向けて私自身が担当部課長とともに訪問し、連携していくことを確認をしております。今後につきましては、そうした連携を踏まえ、検討してまいりたいと考えております。

6点目についてお答えします。国におきましては、全世代を対象とし、各年齢層に応じた健康づくりを重要視するとともに、メタボリックシンドロームの予備軍、該当者が増加する40歳以上の者に対して特定健診、保健指導を実施することは生活習慣病の予防に有効であり、また30歳からの特定健診、保健指導についても、40歳以上における発症予防に有効であると考えているところであります。したがって、本市としましては、この国の考え方に沿って特定健診を進めてまいります。なお、子どものころからの特定健診については、今後の検討課題と考えております。

一方で、子どものころから規則正しい生活習慣を身につけ、健康状態の確認を行うことは重要であると考えており、次の世代を含めた全ての人の健やかな生

活習慣形成の軸となる古賀市健康チャレンジ 10 か条を推進するとともに、その確認の手法の一つとして家族コソコソ健康づくり事業において骨密度測定を行っております。

今後も、国や県の動向を注視しながら、若者に対する健康づくりを推進してまいりますと考えております。

○奴間 健司 まず、基本方針などの決定過程の透明化です。先ほどの答弁では、最終的な市長の意思決定のプロセスというのは御自身がなさる。その結果について、庁議に諮って了承、確認するというプロセスはありますか。

○田辺 一城市長 私が決定した事項について、改めて庁議に諮るということはいたしません。

○奴間 健司 「道の駅」の最終判断についても、庁議には報告していないということですか。

○田辺 一城市長 私の意思決定の結果については、庁議に報告しております。

○奴間 健司 それを聞いた上で、対話をキーワードに再質問します。

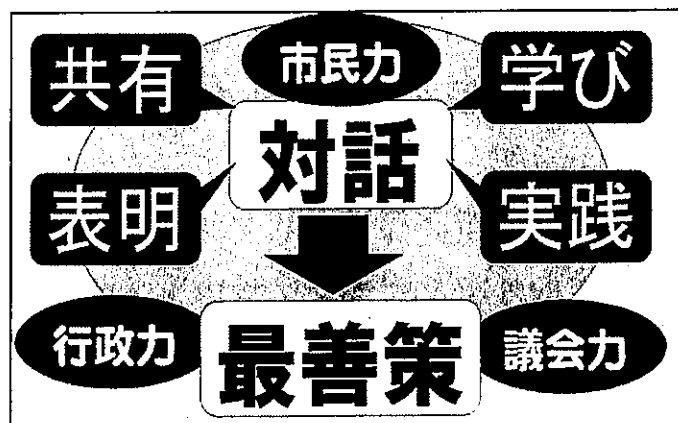
「対話は人づくり」という視点が必要

市長は、判断する上で対話は極めて大きいとおっしゃいました。市長自身が考える対話の意義、効果について、認識をお聞きしたいと思います。

○田辺 一城市長 対話は、政治家が政

治家である限り、必ず力の限りを尽くしてやっていくべきものと考えております。あらゆる時間を通じて、政治家は市民、住民の皆さんの考え、御意見、御意思というものを限界まで全力で捉えていく必要があると考えています。一人でも多くの市民の皆様と接点を持ち、話をするという機会を創出するということは政治活動における義務だと思っております。それを今政治家、市長として実践するに当たり、さまざまな手法を通じて行わせていただいているところです。

○奴間 健司 私の考えを述べたいと思います。



画面をお願いいたします。

対話には四つの意義があると考えています。第1に共有、対話を通じて情報を共有します。第2に表明、自分の考え、疑問点などを相手に伝えます。第3に学び、他人の意見や討論を聞きながら新たな気づきを得ます。第4に実践、対話が新たな実践のきっかけになります。そして、対話の結果、今まで考えも及ばなか

ったような最善の策を見出すという可能性がります。この繰り返しを経て、市民力、行政力、議会力がアップする。私は対話の持つ意義や効果をこのように考えています。市長は共有できますか。

○田辺 一城市長 もう少し付言いたしますと、対話は民主主義のサイクルを成立させる基礎だと思っています。今議員御提示いただいたもの、考え方につきましては、政治活動を始めてこの約9年間、その実践に努めているところです。

○奴間 健司 「市民は意見を言う人であり、市長はそれを聞いて判断する人」という政治家サイドの対話という認識を強く感じますね。私は、あくまで対話というのは、市民も行政も、そして議会も成長していく。「対話は人づくりだ」という視点が大事ではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○田辺 一城市長 政治家サイドの側面が強いという印象を持たれるのは御自由ですが、私はそのつもりはありません。市民の皆様からしっかりと対話の場で御意見をいただき、実際県議時代もその意見がきっかけとなって、知事に対する政策形成の提案につながったケースもあります。ですから、市民の皆様がどのような知見を持たれているか、そしてそれを政治家が吸収して、そしてそれをまた対話の場でお返ししていく、そうし

たサイクルを成立させるために民主主義の実践として対話を重視しているところです。

○奴間 健司 具体例で質問を続けます。市長は、「道の駅」についてはタウンミーティング、意見募集を重視しました。その結果、大変多くの市民が答えてくれました。この結果をどう評価し分析して市長判断に生かしたでしょうか。

○田辺 一城市長 道の駅もそうですが、意思決定において、当然対話、そして住民の皆さんの意思というのは重視しています。タウンミーティングの結果もそうですし、意見募集の結果も奴間議員も含めて皆様にもお示しをさせていただいていますように、結果をまとめ、報告書として提示をさせていただいています。もちろん私もそれは目を通しております。ただ、当初から申し上げますように、計数的な判断材料とはしていません。

○奴間 健司 画面をお願いします。

「道の駅」意見募集は市長の功績

意見募集の結果、回答 373 人、自由記述 229 人、この結果は極めて大変なことで、宝の山だと私は認識します。この宝を引き出したということは、田辺市長の大きな功績として評価しています。

「道の駅」市民の意見は宝の山

回答

373人

自由記述

229人

統計処理

35:45:20

テキストマイニング

37:57:6

この分析の一つですが、あらかじめ用意された設問に基づく統計処理、これは賛否の傾向を把握します。

一方で自由記述の意見ですが、今回私もびっくりしましたが、A4判で36ページという膨大な内容です。このデータを効果的に分析する方法はないか模索していたところ、テキストマイニングという手法を知りました。単語の出現頻度などを解析する方法で、よく経営者が使っているそうです。

例えば、自由記述を私も読みましたが、コスモス広場という単語が約70回ほど出てきます。ほかにも貴重な意見がてんこ盛りでした。議員への厳しい意見もありました。これを分析して公表すれば、市民、行政にとっても大きなヒントになると私は考えましたがいかがですか。

○田辺 一城市長 テキストマイニングは有効な手段の一つではあると思っています。御意見は参考にさせていただきますと思います。

○奴間 健司 膨大な意見をそのまま公表しても、実は役に立たないと思いま

す。宝の山を分析して何を学びとったのか、最終判断にどう生かされたのかをきちんと返すことが大事です。そのようなサイクルは実施されたでしょうか。

○田辺 一城市長 意見募集の結果は、意思決定における材料の大きなものの一つであると考えています。ただ、意思決定をするに際しての材料の全てではありません。私の道の駅に係る意思決定の結果及び今後の観光・物産、情報発信に係るこれからのまちづくり等について、市民の皆様と対話する場は設けるつもりでおります。

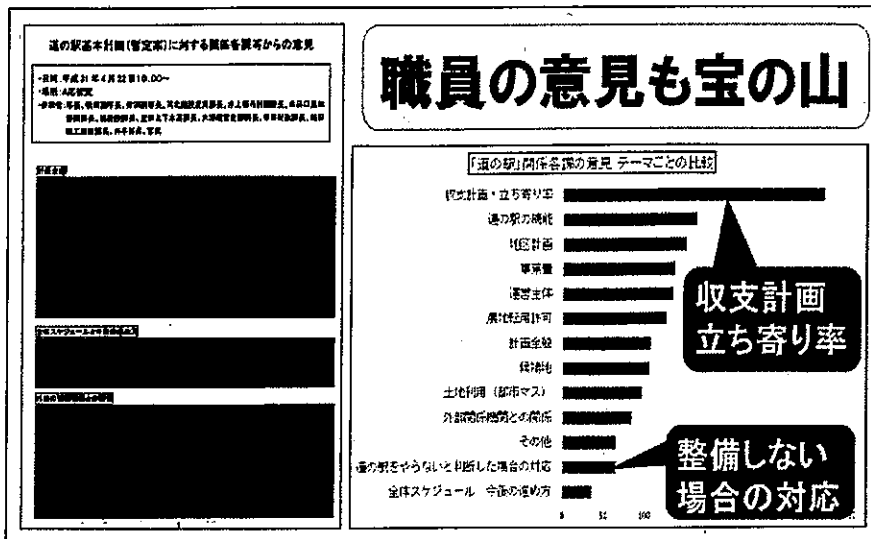
職員は収支計画に危惧を抱いていた

○奴間 健司 市民の意見、対話と同時に職員自身の対話や意見も市長判断の大きな根拠になったのではないかと思います。職員関係各課から寄せられた意見についてはどう生かしたでしょうか。

○田辺 一城市長 そもそも一つの案件で、今回は道の駅でやりましたが、各課に意見を求めるということは通常とっていません。その手法は、庁議の場で部長に取りまとめを指示し、各課から部に上がってきた意見を集約し、その意見等を踏まえて、関係部課長を中心として協議を行ってきました。そうした過程が私の意思決定において重要な影響を与えています。

○奴間 健司 画面をお願いします。

の会議でも重要な視点として様々意見



があったと記憶しています。

○奴間 健司 7月5日時点では時期尚早ということで真っ黒だったのは仕方ないと思います。しかし、最終判断を公表した今、これを改めて公表することで市政運営の透明度が倍増する。さらに、考える職員集団の存在を示すことで、

画面の左側の真っ黒な資料は「道の駅」に対する関係各課の意見です。私が情報開示請求し、7月5日にいただいた回答、A4判で6ページですが、表題を除いてご覧のように真っ黒でした。内容はわかりませんが、テーマごとの黒い部分の面積の差に私は着目しました。

そこで、しつこいようですがその面積を測定して比較したのが右のグラフ。一番上の赤い棒グラフ、収支計画や立ち寄り率に関する意見が圧倒的に多かった。面積が多かったことからわかります。採算見込みに対する危惧の声が強かったと推察できます。このような意見が実は職員から多く上がっていたのではないのでしょうか、いかがですか。

○田辺 一城市長 大変斬新な手法で分析をしていただいておりますが、量的にはなくて私の記憶と感覚に基づきますが、収支の問題については、庁内で

市政に対する信頼を得ることにつながると思います。いかがですか。

○田辺 一城市長 公開につきましては、情報公開条例に基づいて適切に対応してまいります。

○奴間 健司 改めて開示請求したいと思います。

さて、市長、副市長、各部長など、幹部による対話の場が庁議や三役会だと思います。庁議や三役会ではしっかり対話が行われていますか。

○田辺 一城市長 率直に意見交換をしていると認識しています。

庁議の決定書、三役会の議事録作成を

○奴間 健司 私は庁議の会議録も定期的に情報開示請求しています。庁議は、「基本的な重要施策の策定に関して審議、調整及び協議を行い、市長の意思決定を補佐する」となっています。じゃあ、本当に補佐するような審議、協議が行われ

ているのか関心を持ちました。しかし、会議録を見てもそれはさっぱりわからない会議録になっています。審議結果を記録する文書、福津市などでは決定書と言っていますが、古賀市でもそれをつくったらどうでしょうか。

三役会も副市長の役割が増しているだけに重要です。三役会の議事録は、現在作成されていませんが、今後は作成するようにしたらどうですか。

○田辺 一城市長 三役会につきましては、ちょっと捉えられ方がですね、どうか共有できていない感じは受けまされども、三役会の議事録を作ることには考えていません。庁議の決定書につきましては、御意見として承ります。

○奴間 健司 庁議の結果報告は部長任せというのが現状です。福津市などでは、庁議の決定を文書として作成して職員に周知していますが、それらについてはいかががお考えですか。

○田辺 一城市長 庁議の決定という言葉はちょっと捉えがた

いですが、少なくとも庁議の報告につきましては、部長が当然入っていますので、各部にきちんと伝達をするという仕組みをとらせていただいています。

○奴間 健司 そもそも庁議の会議録をごらんになったことがありますか。

○田辺 一城市長 あります。

○奴間 健司 あれで市長の決定を補佐するための審議、協議の結果が全職員に伝わるのでしょうか。

○吉村 博文総務部長 庁議の結果については、その後各部長を通じて各部門会で言葉での報告もあわせて各課長に伝えています。

○奴間 健司 市長の顔を見ていると、何でこんなことを言われるのかみたいな顔ですが、福津市とか大野城とかをぜひ調査研究してみてください。

次に、庁議で真剣に議論がなされているのか、ちょっと耳に痛いかわかりませんが指摘をさせていただきます。

画面をお願いします。

道の駅 反省と教訓

- 売上見込の10億6千万円は、見込は適正だが、長期間に渡って実現する確実性が乏しい。
- 事業者が撤退すれば公共施設として継続できない可能性がある。

「道の駅」を整備しないという市長判断の理由に売り上げ見込みが上げられています。その文章ですが「10億6,000万円の見込みは適正だが、長期間にわたって実現する確実性が乏しい」という日本語です。見込みは適正だが実現するか

どうかは怪しいと読み取れます。そもそも利用者想定年間110万人に基づく売り上げ見込みが過大見込みだったということではないですか。市長自身がコンサルタントと協議して暫定案をつくり、その内容を説明してきました。見込みが甘いと最終的に判断したらトップがまず反省の気持ちを市民に伝え、行政の教訓とすべきだと私は思います。庁議ではそうした意見は全く出ないでこの文章はスルーしたんでしょうか、いかがですか。

見込みの甘さ 市長の反省と教訓を

○田辺 一城市長 あれ抜粋しているんで、重要な文言が抜けていると思っていたんですが、「現時点で」という文言を私は、その見込みの適正性の文章、パラグラフの中に入れていたと、ちょっと済みません、今手元にないんですが、記憶をしています。現時点で見込みは適正だが、何でしたっけ、長期的には確実性には乏しいという趣旨の文章を書いています。

この文書ですが、道の駅の方針決定に係る皆様にお配りして市民の皆様にも公開をしている文書、書いていますね「現時点で」、ですけれども、1行目に書いていますけれども「自治体経営者である市長としての責任において記す」と書いています。これわざわざ書きました。ですので、これ全文私が自分で書いてい

ます。自分で書いておりました、この文書を今庁議という話がありました、庁議のメンバーが目にしたのは私の意思決定の日（8月26日）です。

○奴間 健司 どう説明しようと、現時点で長期見込みを出したのがコンサルです。そして暫定案です。だけど、最終判断は長期間にわたって実現する確実性は乏しいという評価していますから、暫定案の中身ではうまくいかないということを経験したのではないですか。

○田辺 一城市長 いや、だから現時点で……、正確に読みますね。「基本計画暫定案で示した売り上げ見込みの10.6億円については、現時点の見込みとしては適正と判断しているものの、これまでの検討内容だけでは長期間にわたってこの売り上げを継続できると判断するためには確証的な材料が不足し、実現の確実性に乏しいと考えざるを得ないという結論に達した」ということです。

○奴間 健司 余りそこを細かく言うつもりはないのですが、やはり日本語として普通に読めば、当初想定した見込みは甘くて、これやっちゃうと公共施設として維持できなくなるので整備しないという結論に至ったと、誰が読んでもそう読めるんですよ。反省と教訓という気持ちが全然伝わってこないことがこの市長判断の何か非常にちょっと残念

なところ。判断は、私評価していますけど、その反省と教訓が伝わってこないんですよ。そこを指摘しているのですが、いかがですか。

○田辺 一城市長 日本語の問題ですから、そこはこだわりたいんですけども、コンサルも含めて市が主体となり作成した基本計画暫定案の売り上げ見込みの10.6億円は、現時点での見込みとしては適正と判断したが、長期間にわたって売り上げを継続できると判断するための確証的な材料が判断時点において不足しているためこのような文章表現をつくらせていただいたところです。

○奴間 健司 ことし3月に市長も認めて暫定案で行った想定ですよ。だから、反省と教訓というのは市民に伝える意味がないですか、いかがですか。

○田辺 一城市長 教訓を生かすからこそ、この2年半ないし3年目に入っていますけれども、この間の道の駅も含めた観光・物産、情報発信の拠点形成という課題に対して、これまでの知見というのをしっかりと引き継ぎながら新たな視点で、この本市における重要な課題である観光・物産、情報発信の機能というのをうちのまちに持たせていくという新たな決意をこの文書の中でも示させていただいているところです。

○奴間 健司 市長の対話重視の真価

が問われる最初の試金石がこの問題だったと思います。私はこの中身にそんなに目くじら立てるつもりはないので話を進めますが、市長の最終判断の文書には市長の人間性というんでしょうかね、何か間違いない判断をしたぞというメッセージが伝わってきますが、その過程での反省点、教訓は伝わってこないというのは残念だなと思います。真剣に受けとめてもらいたいと思います。

対話の真価問われる宮地岳線跡地問題

「道の駅」に続いて宮地岳線跡地も二つ目の試金石になると思います。先ほどの答弁では庁議では議題にしていなかったのですが、なぜでしょうか。

○田辺 一城市長 意識的にしてないわけではありません。

○奴間 健司 これ大変大きな問題ですけども、市民との対応については、きのう同僚議員が論点を整理してくれました。別の角度から指摘します。跡地活用には一部宅地化も含まれています。その担当課はどこでしょうか。また、販売戸数、販売収入見込みは立てていますか。

○河北 吉昭建設産業部長 跡地につきましては建設課で行っておりますが、まだ住宅開発の戸数とか販売金額というのは計画しておりません。

○奴間 健司 一部宅地化による定住化促進、収入確保も私は大事な観点だと

思います。説明会にはなぜか建設課しか来ないので、やはり道路ありきの説明会だという指摘が出てくるのは当然だと思います。対話の場には宅地化の担当者も来て、1億8,000万円で買った土地をこんなふうには有効活用するんだという説明はあってしかるべきだと思いますが、市長いかがですか。

宅地化の担当課も対話集会に参加を

○田辺 一城市長 西鉄宮地岳線跡地にかかわらず、本市にはかなり重要な案件が山積している中で、それでも対話の場を設定するという案件はほかにもあります。そうした場の設定というのは、これまでの市政運営でほとんどなかったものを増やしていますので、本市の人的資源、また働く時間等も勘案しながらそうしたことは検討しなければならないと考えています。

○奴間 健司 宅地化は跡地活用にとって極めて重要なウエートを占めませんか。どう認識しますか。

○田辺 一城市長 全ての視点が重要であり、その重要な視点の中に宅地化というの也被まると考えます。

○奴間 健司 何か答弁は立派過ぎてもう返す言葉はないのですが、じゃあ今後宅地化の担当者を対話集会に参加させますか。

○田辺 一城市長 先ほど申し上げま

したように、自治体の経営者で雇用している責任がありますので、職員の働き方も勘案して、総合的に判断すべき案件だと思います。

○奴間 健司 参加させるんですか、させないんですか。

○田辺 一城市長 参加させるかさせないかということを経合的に勘案して決める案件だと思います。

○奴間 健司 ちょっとなかなか硬いなと思いますね。跡地利用というのは、道路もあれば遊歩道もあれば宅地もあると思う。市民は跡地全体をどうしたいのかということを知りたいわけだから、それを説明できる人は参加すべきだと思います。最後にしますがいかがですか。

○田辺 一城市長 西鉄宮地岳線跡地の活用については、方向性が決まっていくなに従って様々な担当がかかわっていくことになるとは想定されます。そうしたことも含めて考える材料にさせていただけたらと思います。

○奴間 健司 対話が継続されますので、また対話の中で市民からも意見が出ると思います。

昨日、跡地問題と関連してちょっと気になることがあったのでお尋ねします。
花見小通学路の安全対策の即実行を

花見小校区の交通安全対策として、生活道路対策エリア登録と可搬型ハン

による実証実験を求める質問に、市長は検討すると答弁されました。実は、8月21日に花見校区コミュニティ会長京谷さんが花見小校長、PTCA、自治会長、見守り隊、私たち地元議員の合意をもとに要望書を提出しました。平木議員と私も同行していますが、これは受けとっているのでしょうか。

○田辺 一城市長 8月21日付で当該御要望について受け取っており、その要望書については原課から渡され、全文に目を通し、またきのうの質疑の際もこの机の上にあります。

○奴間 健司 幸い担当職員も前向きであり、地元からも強い後押しがありましたので、市長としては「検討する」ではなく、「自ら名島にある国道事務所に outward、直接支援を求めてきます」という答弁があつてしかるべきだと思いますがいかがですか。

○田辺 一城市長 私も県議会議員、地方議員の立場を経験していますので、確かにその御指摘の意味はわかりますけれども、行政の長としてはそれでも最大限前向きな表現として返させていたと認識をしています。

○奴間 健司 この問題については、もう実行あるのみだと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

前半、もうちょっと解きほぐせるかな

と思ったんですが、結構市長硬いですね。私も硬いのかもわからないんですけど、後半はちょっと柔らかくやりましょう。

健康を基軸とした将来都市像について

健康基軸の問題です。もう一度、健康を基軸とした将来都市像について市長の認識のポイントを聞かせてください。

○田辺 一城市長 健康という観点が今後の我が国の地方自治体のまちづくりにおいてとても重要であるということは、奴間議員もかねてよりずっと御提起されてきております。私自身奴間議員から学ばせていただけてきたことももちろんあります。そうしたさまざまな学びの中から、私が市長となりまして、持続可能な都市に向けた経営方針の中に大きな三つの柱に「健康」という文言を入れさせていただいたということは、そうしたこれまでの政治活動、学びの延長線上にあります。

そして、なぜ健康が重要かということは、やはり超高齢社会になって、医療費、介護費、社会保障費の増大というものをいかにして政治行政的には抑制していくかということが国家的課題であるという認識から、健康づくりを推し進める政策の重要性ということを認識しています。

ひいては、市民の皆様からすれば、やっぱり最期まで健康で生きがいを持つ

て生きていけるということに人生における価値があるということだと思いますので、こうした政策を重点を置いているところです。

○奴間 健司 古賀市は、市民の命と健康を守る医療機関に恵まれています。

画面をお願いします。

9月7日・リーパースプラザ	古賀市で 福岡救急医学会	市民公開講座 同時開催	入場 無料
		●9月7日(土) 午後3時30分～午後4時30分 ●歴史資料館 ●①熱中症、インフルエンザ予防救急 ②救急車の適正利用	

実は明日ですが、福岡救急医学会がリーパースプラザこがで開催されます。通常ホテルなどで開催されることが多いのですが、江崎院長が会場を選び、またお弁当やお土産も古賀市内の事業所を活用していただいています。同時に、熱中症やインフルエンザの予防救急、救急車の適正利用について、市民公開講座も開催されます。江崎院長とお会いしましたら、予防健診課の協力を高く評価していました。明日のことですが、積極的にPRすべきイベントだと思いますが、いかがですか。

○田辺 一城市長 この間、この会議に向けて、江崎院長からも御依頼等もあって、市としても予防健診課などを中心と

して、できる御支援をさせていただいてきました。私も明日、今お示しいただいた3時半からの市民公開講座には行かせていただこうと考えています。せっくなので、市長室ブログでも案内を書かせていただいております。

○奴間 健司 私も明日はしっかり勉強したいと思っております。

24時間365日の在宅医療について
順番を繰り上げて、24時間365日の在宅医療について再質問をします。

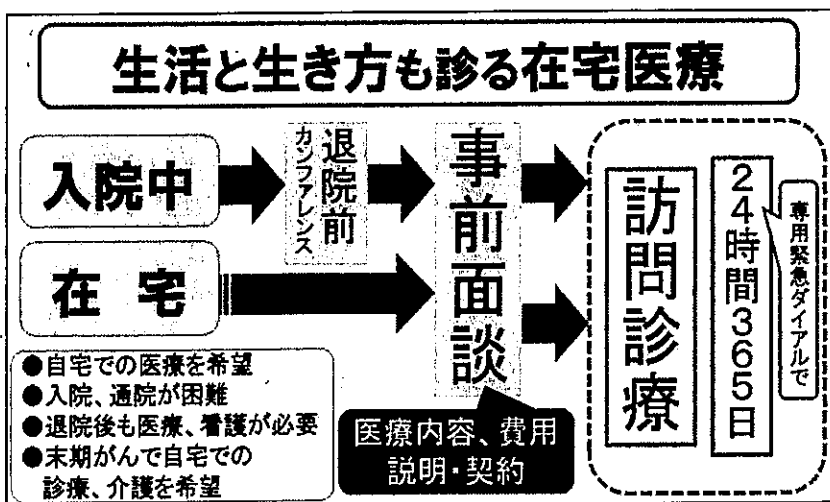
答弁にもありましたように、正式には9月2日らしいのですが、薬王寺に古賀市で初の在宅医療支援診療所が開業されました。私も早速見学をし、長谷川久美医師にインタビューしました。本当にありがたく、期待も大きいのですが、在宅医療もまだまだなじみがありません。市としては、市民への啓発啓蒙を進めるべきだと思いますが、市長、いかがお考えでしょう。

○田辺 一城市長 2日だったんですね。私も申したように、開院前にですね、担当部課長と一緒に長谷川先生のところに行って、その意義とか、これから長谷川先生がどうされていきたいかということを直接聞かせていただいた。市としても、この動きを歓迎し、そして我々が持っていない知見、情報というのが運営されていく中で生まれてくるでしょ

うから、そうした情報を密な連携でいただきながら、意見を交わせないかというような趣旨のお話もさせていただきました。いいですねということで連携というところになっているところですよ。

やっぱり在宅で最期まで過ごせる環境をつくっていくということは、市民の皆様お一人お一人が最期は病院ではなく、住みなれた場所でという意識、それがいいよねと思ってもらえるような意識づくりを広げる必要性があると考えています。議員御指摘の点については、これまでも在宅医療の有用性については市民の皆様にも伝えてきているところですが、引き続きしっかりとやっていく案件だと思います。

○奴間 健司 画面をお願いします。



「生活も診る、そして生き方も診る」というのが在宅医療です。対象者は自宅での医療を希望する方、通院、入院が困難な方、住みなれた自宅で最期を迎えたいと望む方々です。事前面談を行い、在

宅医療の内容や費用面について説明を受け、同意したら契約を結びます。そこから定期的な訪問診療が始まり、緊急時には24時間365日駆けつけてくれます。医療費は月極です。制度の概要はどのように理解していますが、市長いかがでしょうか。また、医療、介護にまたがる分野ですが、市としての担当窓口はどこになるのでしょうか。

予防健診と介護支援にまたがる分野

○田辺 一城市長 今お示しいただいた概念図で大きくは私も同じ捉え方です。在宅医療は保健福祉部を中心に組んでいく案件だと考えています。

○野村 哲也保健福祉部長 地域医療という観点で考えますと予防健診課ですが、在宅医療と介護連携ということで

捉えますと介護支援課ということになりますので、両課にまたがる分野だと認識しております。

○奴間 健司 11月23日に宗像市のコールメディカルクリニックの岩野先生を講師に講演会を計画しています。市民の皆さんを中心に医療・介護関係者、行政、

議会の皆さんと一緒に準備していきたいと思います。長谷川先生もパネリストを引き受けていただいております。市長にはぜひ御協力をお願いしたいと思います。

子ども対象の血液検査について

この後は、小中学生を対象とする血液検査の導入に論点を絞ります。先ほどの答弁では、有用性は認めるが検討課題ということですが、より前向き答弁と受けとめていいですか。

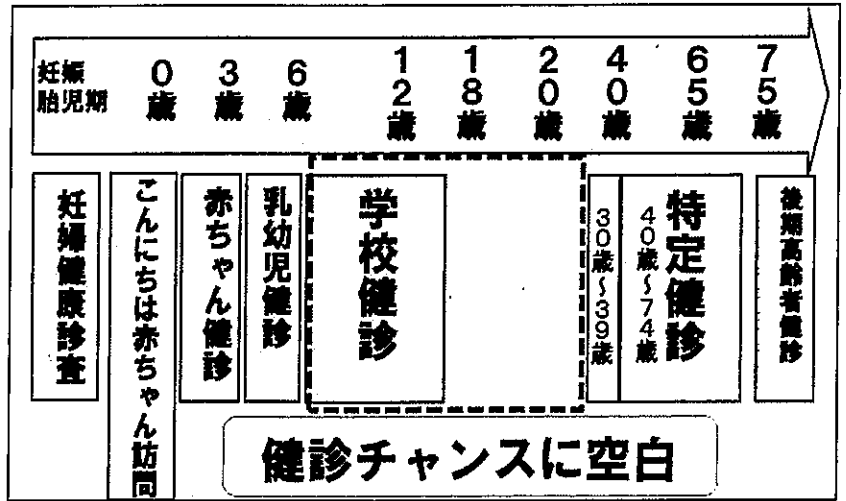
○田辺 一城市長 答弁で申しましたとおり、もちろん国や県の考え方に縛られて自治体経営をしていくつもりはありません。特定健診は国は40歳以上となっていますが、より若い30歳からの特定健診・保健指導を本市としても今やっています。そうした中で今御提案いただいた子どもという話ですね。子どものときから健康づくりの意識をしっかりとっていくことの有用性は私自身持っています。そうした認識がまず私自身にもあるということ踏まえた上で今後の検討課題という表現をさせていただきました。

○奴間 健司 前向きに近い答弁なのかなと理解します。

画面をお願いします。

これは、古賀市での人生の各ステージにおける健診の流れを示しています。左側から妊娠、妊婦検査、こんにちは赤ちゃん訪問、赤ちゃん健診、乳幼児健診、学校検診は一応ありますが空白があって、古賀市独自で30歳から39歳の若年

健診、そして40から74歳の特定健診、75歳以上の後期高齢者健診です。



私は、この赤い点線で囲んだ部分、小学生から29歳までの間が実は空白になっているのではないかと。この空白を埋めようじゃないかというのが提言のポイントです。いかがでしょうか。

○田辺 一城市長 いや、ですから子どもの健康という観点から、そうした有用性を認め、今示していただいたとおりですね、そこに空白があるからというか、子どものころからですね、健康というものに対して意識をするということはすごく大切です。そのための何らかの機会の創出を、今結果として何もやっていない期間を念頭に置いて考えていくことが大切だと思っています。

○奴間 健司 生活習慣病は、ご存知のように自覚症状がないまま進行します。血液検査というのは体の中からのサインをキャッチします。キャッチできたからといってすぐ病気というわけじゃな

いんですね。早目にキャッチしたら対応が必要ということで、キーワードのポイントは血液検査、そこについて市長、どうお考えですか。

○田辺 一城市長 以前おっしゃっていたのか、フェイスブックなどで見させていただいていますが、宇美町のケースを念頭に置いて、その血液検査の話を投稿していただいていると思います。宇美町においても、その効果が行政としてもはかっているところです。本市としても宇美町の情報を得ていますので、そうした動向というのにも今勉強させていただいています。そうしたことも踏まえて血液検査の有意義性というのにはかかっていかなきゃいけないなという意識は持っています。

○奴間 健司 画面をお願いします。

	心臓検診 2次検診対象者数	尿検査 2次検査対象者数
中学校	53人/529人 10%	54人/1580人 3.4%
小学校	13人/583人 2.2%	38人/3457人 1.1%
年間予算 約334万円		

学校検診というのがあります。心臓検診、尿検査、結核の検査があります。毎年334万円かけて、粕屋医師会や東医療センターに委託しています。1次、2次、3次までありますが、人数的には極めて

少ないのですが、それでも発見できるきっかけにはなります。ただ、これが生活習慣病予防の対策に有効かどうかというのはしっかり検証する必要があると思います。この点は教育長になるのか市長になるのか、認識をお聞かせください。

○長谷川清孝教育長 今の検診結果につきましては、粕屋医師会とそれぞれの市町村、教育委員会、あるいは学校が連携をしまして、それぞれ医療機関にかかったほうがいい児童・生徒等については直接学校のほうに連絡があり、そして学校から保護者のほうに、例えば腎臓機能が少しおかしいですよとか、そういうふうな形での連絡をしていただいて、いわゆる受診を進めており、早期発見、治療に努めているというのが1市7町の共通事項であります。粕屋医師会との連携ということです。

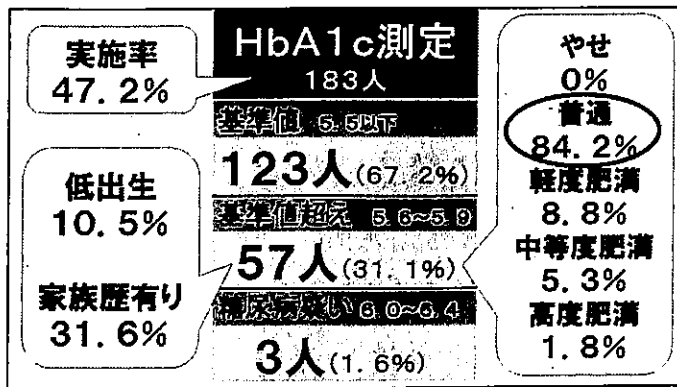
○奴間 健司 生活習慣病予防という観点からは、そろそろ、それを補強する対策が必要ではないかというのが私の意見です。

宇美町の子ども血液検査の有効性

そこで、先ほど市長が触れていただいた宇美町の取り組み、「うみっ子健診」を紹介いたします。

画面をお願いいたします。

宇美町は、2018年度小学校5年生を対象に血液検査を実施しています。保護者



の同意を集めて実施したところ、実施率は47.2%、人数では183人。ヘモグロビンA1cが5.6以上の児童が何と32%という結果が出ました。また、該当する子どものうち、低出生の割合が10.5%、家族に糖尿病等の病歴がある割合は31.6%。また肥満との関連では、普通と見られる割合が84.2%であり、見た目では把握できないこと、つまり血液検査を通じて発信されているものがある。

子どもたちの体には無視できない状況が進んでいるということです。昨日も宇美町の保健師の課長さんにお話を聞きましたが、今年度の実施率は6割を超したそうです。そして保護者から、ぜひ続けてほしいといううれしい反応があったそうです。私も我が事のようにうれしく思いました。

これは聞くまでもないかもしれませんが、この事例について市長の感想をお聞かせください。

○田辺 一城市長 宇美町の血液検査は、今反応を御紹介いただいていますけれども、健康という側面から有用性のあ

る取り組みだなというふうにまずは認識をしています。

○奴間 健司 また、私が非常に感激したのはその結果のフォローです。保健師の皆さんが血液検査を受けた児童、保護者のほぼ全員である182人、それぞれ30分かけて保健指導をしています。指導の中ではインスリンの働きがいかに重要かということをお教え、栄養指導が必要と判断した場合は、校区担当の管理栄養士が骨、筋肉をつくるため必要な栄養素などを説明しています。なかなか食事といっても難しいので、まず野菜から食べることから習慣づけましょう、こんなことも話しているそうです。

これだけの膨大な業務、古賀市ではちょっと整理しないとその力を割ける体制がないかもしれませんが、大いに学ぶべき点だと思いますがいかがですか。

○田辺 一城市長 いや、本市の健康にかかわる行政の推進の上では、大いに学びになるケースだと認識しています。

○奴間 健司 また、行政運営としても学ぶ点がありまして、宇美町のマスタープランには、ヘモグロビンA1c5.6以上の割合30%を2022年度までに15%にするという数値目標まで掲げているんですね。中学2年生になったらもう一度検査をして、保健指導の効果を確かめようということで、これは担当課よりも

教育者出身の町長自身が積極的に投げかけたそうです。この意気込みも学びたいところですが、いかがでしょうか。

○田辺 一城市長 そうですね、この案件はもちろん先ほど申しあげましたように、非常に学び得るところです。この案件に限らず、首長がいろんな案件でその意義を認めるならば、リーダーシップを持って判断していくということはとても大切なことだと思います。

○奴間 健司 一昨日、私はさらにまたうれしい情報を得ました。

香川県では全県で子ども血液検査

画面をお願いいたします。

香川県 小4対象に全県的血液検査	
糖尿病ワースト県 受療率全国1位	16市町 7647人 小4全児童の92%
一人の医師の申し出 1987年の自費で実施	1 身長、体重 2 生活習慣調査 3 血液検査
2012年から全県実施 教育委員会 費用の半分为県が補助	児童、保護者対象に 糖尿病予防教育

香川県は2012年から何と全県的に小学校4年生の児童全員を対象に血液検査を行っているんです。香川県はうどん県として有名ですが、糖尿病ワースト県としても有名で、汚名返上に力を入れています。県が検査費用の半分を市町に補助し、県内の小学校4年生全体の92% 7,647人が検査を受けています。県がここまで取り組んでいるというのは驚き

でした。

市長は、県議時代、健康づくりについては積極的に議会で提言されていましたが、福岡県もこんなことをやってくれそうでしょうか。

○田辺 一城市長 投げてみなければわかりませんが、先ほど有用性や意義という話がこのやりとりでも出ていますけれども、知事自身がその意義を認めれば国などの動きとは別に、県独自にやるということも判断をされる知事だと、小川さんがですね、いうふうな実感は持っています。この件についても知事が知り、受けとめたならばそうした可能性はあると思います。

○奴間 健司 実は、香川県では三木町というところで子どもたちの脂質異常が気になった一人の開業医、松原奎一先生が自費で血液検査を始めたそうです。朝8時から自分の病院で採血を行い、子どもたちに来てもらうためにサンドイッチと飲み物を用意したそうです。32年前のことです。その取り組みが県を動かし、2012年からは小4全員を対象にしました。近々中1全員を対象にする予定だそうです。

宇美町の取り組みに古賀市も続き、そして福岡県を動かし、県内の小学生全員を対象とする児童生活習慣病予防健診を実現しませんか。今度は県議という立

場ではなく市長という立場で、これまでの人脈を生かせば実現可能だと私は確信しておりますが、いかがでしょうか。

○田辺 一城市長 古賀市においてですね、御提案の血液検査含めですね、子どもの健康にかかる取り組みを今後どうしていくかということは、本日の御提案というのも念頭に置いて、考えていくべきだと考えています。

また、福岡県に対し、その人脈を評価いただいていることはありがたいと思いますので、私が培ってきたネットワーク等も含めて、この案件についても、そうした人脈を活用する中で意識して市長として行動していきたいと思います。

子ども血液検査の予算の裏付け

○奴間 健司 当然これは予算措置が伴います。宇美町でヒアリングしたことをもとに試算してみました。血液検査委託料と医師派遣料で古賀市の小学校5年生をベースにすると約167万円となりました。これは子どもたちの健康を守るためには必要不可欠、そして将来の生活習慣病予防するためには極めて可能な金額でもあると思います。いかがですか。

○田辺 一城市長 そうした財政の面も含めて、先ほど申し上げましたように、今後子どもにかかる健康の取り組みを考えるに当たって参考にさせていただきたいと思います。

2020年度に一步でも前進を

○奴間 健司 9月議会の一般質問というのは当然、来年度の予算編成を意識して提言します。したがって、これは遠い将来の話ではなくて、来年度、ともかく何か一步でも前進するということを求めて取り上げております。制度設計に着手してくれませんか。

○田辺 一城市長 奴間議員も御存じだとは思いますが、本会議場での発言は非常に重いものがあります。そうした中で、やはり皆様の御提案を私も地方議員でしたから、しっかり受けとめるということで、ここでどこまで表現できるかということのを頭をフル回転させて言わせていただいております。

本件につきましても、血液検査、宇美町の事例、こうしたものは子どもの健康に係る取り組みを考える上で非常に有意な取り組みであるという認識を私自身は御提起も含めてですね、持っています。今後本市が子どもにかかわる何らかの健康の取り組みをしていかなければならないという基本認識も披瀝させていただいたとおりです。当然に今後の取り組みを考えるに当たって、本日のやりとりというものも私自身、また本市行政の念頭に置かれているということだと思います。

○奴間 健司 前市長と大分答弁が変

わってきたなと思います。今までは私がこういう質問をすると、「原課とよく相談して」とかですね、「原課から予算請求があれば検討します」という答弁でした。だけど、私はこれはもう担当課のレベルではありません。

保健医療2035推進本部で検討を

そのためにこそ市長を本部長とする「保健医療2035推進本部」が立ち上がっています。そこで、市長一人の認識ではなくて推進本部全体で議論を起こして、部を超えて議論する。そこで原課に対する市を挙げてのサポート体制を確立し、予算の裏づけをつけていく。原課から言ってくるのを待つといっても予算が厳しい厳しいと言われる中ではなかなか上がってこないのが現状です。推進本部でぜひ議題にして、市を挙げての取り組みとして検討を始めていただきたい。市長自身の意思はよくわかりましたので、推進本部としても検討していただだけませんか。

○田辺 一城市長 推進本部は、今後の本市の取り組みを考える非常に重要な場ですし、その場が今有効に機能していると考えています。私の実感としてもですね。ですから、そうした場でこうした議会からの御提案というものをテーマとして考えていくことは大切だと思います。きょうのやりとりを踏まえて、

2035推進本部におきましても、そのテーマとしていきたいと考えます。

保健師の力を発揮できる体制を

○奴間 健司 予算とあわせて大事なのがマンパワーです。特に保健師、管理栄養士など専門職が力を発揮できる環境。さっき宇美町で紹介したような100何十人に対して1ケース30分かけるといのは、今の古賀市の保健師にそれを求めても無理だと思います。ですから、そういうことができるよう業務の体制、環境、これをつくるのも、やっぱり原課に委ねるだけでは難しいと思います。直接子どもや保護者に働きかけができる、結果を出せるような保健指導に本来の力を発揮できる環境、そこを配慮してあげるのは市長をはじめとする市全体、とりわけ推進本部の力だと思いますが、その点いかがでしょうか。

○田辺 一城市長 この分野の取り組みをより充実して進めていくために、保健師が果たす役割がとて大きいということは認識を共有させていただいております。保健師が十分にその働きを効果がある形でやっていける体制をつくっていくことが大事だという御提起は私もそのとおりだと思っています。

そうした中で、人的配置というものは本市の機構全体に影響を与えますので、配置をどうするかという問題に関しま

しては慎重に内部で検討していく必要があると考えています。

○奴間 健司 特定健診の受診率向上にかなりの力をとられていますね。この辺もほかの部署からチェックをして、サポートする意味でそこを改革していく。市民の健康を見ていただく保健師さんたちが余りの業務の多さで疲弊したら元も子もない。そこら辺の問題意識はお持ちでしょうか。

○田辺 一城市長 その問題意識は既に持っていまして、庁内でもそうした視点からの議論というか意見交換というのはこの間もしてきているところです。

来年度予算案を注視する

○奴間 健司 予算、人、この点は来年度の施政方針や予算案にどう生かされるのかは注視していきたい。

一般質問というのは一議員の提言です。これが議会の総意となるよう努力はいたしますが、しかし香川県のケースを見ても、たった一人の開業医の努力が県を動かしたという動きがある。ですから、多分市長はそんなことは思ってないと思いますが、一議員の提案じゃないかと軽く見てないと思うんですが、念のために聞いておきたいんですけど。

○田辺 一城市長 何度も申し上げますが、私も県議やっていたので、全く軽くは見ていませんし、この議会もそ

うです。議会からの御提案というのをしっかりと行政内部で受けとめるという形を私市長になって強化したつもりでもあります。そうした基本姿勢であることは改めて申し上げておきます。

○奴間 健司 きょうの一般質問、対話を通じて古賀市のまちづくりがまた一歩前進することを期待して終わります。

ぬま健司のプロフィール

- 1952年4月17日、石川県加賀市生まれ。神奈川県平塚江南高校卒。
- 千葉大医学部中退。
- 1995年町議初当選。2018年市長選に挑戦。2019年市議選で6回連続トップ当選、現在7期目。
- 議会運営委員会委員長、政策推進会議会長、文教厚生常任委員。
- 2011年5月～2015年5月、市議会議長として議会改革に取り組む。早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革度調査で古賀市議会は2014年度から3年連続九州沖縄で第1位と評価。
- 千鳥小の千鳥が池自然観察会をゲストティーチャーとして支援。
- 「地域医療と市民を結ぶ会」(大岩俊夫代表)の事務局長。
- 妻(精神保健福祉士)、息子(義肢装具士・尼崎市在住)、娘(管理栄養士)の4人家族
- 趣味は写真、コカリナ演奏、軽登山、卓球など。

一般質問の録画を見ることができます！

古賀市のホームページの中の市議会インターネット議会中継で一般質問の録画を配信しています。議員ごとにまとめています。

ぬま健司の約束

2019年4月

ぬま健司が心がける「3つの実践」

約束① 今後4年間は将来ビジョンを描く大事な時。市民とともに財政見通しを共有し優先課題を選択します。

約束② 健康づくりは私のライフワーク。「子ども健診の導入」と「在宅療養サポート」に奔走します。

約束③ 公共交通は人間の血管と同じ。気軽に外出できる公共交通実現をめざします。

約束④ 「道の駅」は計画内容を慎重に検討します。

変化する議会構成、県との関係
田辺市長の市政運営を見守り
市民本位の市政実現をめざす

豊かな学び
対話の場作り

くらし・地域
身近な課題

ぬま健司が力を入れる「4つの政策」

①健康・地域

- ★特定健診・がん検診の自己負担軽減
- ★子ども・若者対象の健診導入
- ★保健師配置の「地域支え合いセンター」
- ★医師・看護師による在宅医療体制確立

②子ども・若者

- ★保育士人材確保
- ★学校トイレの改修促進
- ★若者会議設置、予算反映
- ★図書館開館時間の延長

③環境・産業

- ★生ゴミ分別、バイオマス発電
- ★食・健康経営・災害対応で企業との連携
- ★路線バスと小型自動車による公共交通網

④情報・対話

- ★行政・議会の情報発信
- ★議場での市民の意見表明
- ★ワークショップまちづくり

<編集後記> 私は一般質問の全記録を冊子にまとめています。今回は13弾目で、田辺一城市長との2回目の一般質問の記録です。対話と子ども血液検査が主なテーマでした。

私は、毎回の一般質問でまちづくりにとって重要なテーマを取り上げています。市民の声や現状把握、先進地の調査研究等を踏まえ、市長との政策論争を積み重ねています。市民にとって必要な政策の実現につなげていきます。また、これから市議に挑戦しようという方や職員として頑張っている方々の「参考書」になれば幸いです。ご感想、ご提案をお願いします。

「2019.9.6 ぬま健司の提言詳報（第13弾）」

発行 2019年12月1日

奴間健司事務所 〒811-3113

福岡県古賀市千鳥 2-3-7 安部ビル 103

電話・fax 092-944-2639

前回の一般質問以降の動き

「道の駅」は整備しない

田辺一城市長は8月26日、懸案の「道の駅」は整備しないという判断を明らかにしました。私は6月議会の一般質問で、「道の駅」の問題点を指摘し、「整備しない判断」を求めています。

尼崎市子ども健診を視察

10月23日、古賀市議会文教厚生常任委員会は、兵庫県尼崎市の11歳と14歳を対象とする「尼っ子健診」を学んできました。早急に実施したい大事な課題です。

在宅医療のススメ講演会175人

11月23日の在宅医の岩野歩先生の講演、シンポジウムに175人が参加。切実な課題であることを再認識しました。

領 収 証

No 084601

石川 健司 様

2020年2月21日

金額 ¥15065

但し 2/23 石川旅行社(徳島・石川マリーナホテル)

上記の金額正に領収致しました 方印を貼

収入
印紙

請求 No.	25929
現金	✓
内 小切手	
訳 振込	
相殺	

No.084508再発行



石川旅行社
〒811-3103 福岡県古賀市中央1丁目6-40
tel (092)943-1355
fax (092)943-1366

係印

予約確認書

売上No: 00025929-01

発行日: 2020年02月18日

奴間健司 様

ツアー名: 壱岐2日間(壱岐マリーナホテル)

福岡県知事登録旅行業 第2種-380号
ジョイトラベル有限公司
総合旅行センター
〒811-3103 古賀市中央1丁目6番40号

TEL: 092-943-1355 FAX: 092-943-1366

責任者: [REDACTED]

担当者: [REDACTED]

予約内容

No.項目	単価	数量	金額	備考
1 宿泊費(壱岐マリーナホテル)	7,235	2	14,470	
2 船舶運賃(博多⇄壱岐)	7,830	2	15,660	
合計金額			30,130	

予約詳細

《JR・航空・フェリーなど》

利用日	出発地	到着地	便名	クラス	発時刻	着時刻	備考
2020/02/23	博多港	芦辺港	JF113		10:45	11:50	
2020/02/24	芦辺港	博多港	JF124		14:25	15:30	

《宿泊施設など》

チェックイン	時間	チェックアウト	時間	宿泊施設	TEL	条件	備考
2020/02/23		2020/02/24		宿泊費(壱岐マリーナホテル)			

備考 [REDACTED]

新製品が安い KS ケーズデンキ

お買上げ明細

2019年 7月 4日(木)

14時13分

【お名前】 (3236000054379)

双 ケゾ

奴間 健司

様

---<明細>---

1 ●インクカートリッジ 持帰
エプソン
4988617268852 KUI-BK-L 8%
5%値引対象 1点 ¥1,292

1点/合計 ¥1,292

税率別内訳 / 課税対象額 8% ¥1,292
(内消費税額 ¥95)

[0533236-053026437-2310006159878]

領収証

2019年 7月 4日(木)

14時13分

様

金額 ¥1,292
(内消費税等 ¥95)

但し、お品代として

上記金額正に領収致しました。

---<決済内訳>---

現金 ¥1,292
(内消費税等 ¥95)

現金お預かり ¥2,002
お釣り ¥710

ケーズデンキ古賀店

電話番号 092-410-3170

販売担当者

店コード 2200005332368
売上伝票番号 2310006159878

あんしんパスポートアプリダウンロードと
新規登録でクーポンプレゼント中!
【実施期間：2019年8月31日まで】



新製品が安い KS ケーズデンキ

お買上げ明細

2019年 9月 4日(水) 11時49分

【お名前】 (3236000054379)
 双ヶ谷
 奴間 健司 様

＜明細＞			
1 ●インクカートリッジ エプソン 4988617268852 KUI-BK-L 5%値引対象 1点	・ 持帰	8%	¥1,292
2 ●インクカートリッジ エプソン 4988617268883 KUI-Y-L 5%値引対象 1点	・ 持帰	8%	¥1,292
3 ●インクカートリッジ エプソン 4988617268890 KUI-LC-L 5%値引対象 1点	・ 持帰	8%	¥1,292
3点/合計			¥3,876
税率別内訳 /	課税対象額	8%	¥3,876
		(内消費税額)	¥287

[0533236-053012706-2310005590092]

領収証

2019年 9月 4日(水) 11時49分

様
金額 ¥3,876
 (内消費税等 ¥287)

但し、お品代として
 上記金額正に領収致しました。

＜決済内訳＞	
現金	¥3,876
(内消費税等)	¥287
現金お預かり	¥5,006
お釣り	¥1,130

ケーズデンキ古賀店
 電話番号 092-410-3170
 販売担当者

店コード 2200005332368
 売上伝票番号 2310005590092

お得で便利なあんしんパスポートアプリは
 ↓↓ こちらから ↓↓



新製品が安い KS ケーズデンキ

お買上げ明細

2019年11月13日(水) 17時45分

【お名前】 (3236000054379)
 双ヶ谷
 奴間 健司 様

＜明細＞			
1 ●インクカートリッジ エプソン 4988617268906 KUI-LM-L 7%値引対象 1点	・ 持帰	10%	¥1,288
1点/合計			¥1,288
税率別内訳 /	課税対象額	10%	¥1,288
		(内消費税額)	¥117

[0533236-053012706-2310005668432]

領収証

2019年11月13日(水) 17時45分

様
金額 ¥1,288
 (内消費税等 ¥117)

但し、お品代として
 上記金額正に領収致しました。

＜決済内訳＞	
現金	¥1,288
(内消費税等)	¥117
現金お預かり	¥1,290
お釣り	¥2

ケーズデンキ古賀店
 電話番号 092-410-3170
 販売担当者

店コード 2200005332368
 売上伝票番号 2310005668432

あんしんパスポートアプリダウンロードと
 新規登録でクーポンプレゼント中！
 【実施期間：2020年3月31日まで】



新製品が安い KS ケーズデンキ

お買上げ明細

2019年11月26日(火) 14時13分

【お名前】 (3236000054379)
 双ヶ崎
 奴間 健司 様

<明細>

1 ●インクカートリッジ エプソン 4988617268852 KUI-BK-L 10%値引対象 1点	・ 持帰 10% ¥1,247
2 使用済みインク値引き -----* 2098010128256 インク社"¥10IN 1点	・ 持帰 10% ¥0
明細小計	¥1,247
B 値引	-10
2点/合計	¥1,237
税率別内訳 / 課税対象額 10%	¥1,237
(内消費税額)	¥112)

[0533236-053022644-2310005679445]

領収証

2019年11月26日(火) 14時13分

金額 ¥1,237
 (内消費税等 ¥112)

但し、お品代として
 上記金額正に領収致しました。

<決済内訳>

現金	¥1,237
(内消費税等)	¥112)
現金お預かり	¥1,507
お釣り	¥270

ケーズデンキ古賀店
 電話番号 092-410-3170
 販売担当者

店コード 2200005332368
 売上伝票番号 2310005679445

あんしんパスポートアプリダウンロードと
 新規登録でクーポンプレゼント中!
 【実施期間：2020年3月31日まで】



新製品が安い KS ケーズデンキ

お買上げ明細

2019年12月30日(月) 12時12分

【お名前】 (3236000054379)
 双ヶ崎
 奴間 健司 様

<明細>

1 ●インクカートリッジ エプソン 4988617268982 KUI-6CL-L 10%値引対象 1点	・ 持帰 10% ¥7,256
1点/合計	¥7,256
税率別内訳 / 課税対象額 10%	¥7,256
(内消費税額)	¥659)

[0533236-053027939-2310005713286]

領収証

2019年12月30日(月) 12時12分

金額 ¥7,256
 (内消費税等 ¥659)

但し、お品代として
 上記金額正に領収致しました。

<決済内訳>

現金	¥7,256
(内消費税等)	¥659)
現金お預かり	¥7,256

ケーズデンキ古賀店
 電話番号 092-410-3170
 販売担当者

店コード 2200005332368
 売上伝票番号 2310005713286

あんしんパスポートアプリダウンロードと
 新規登録でクーポンプレゼント中!
 【実施期間：2020年3月31日まで】



新製品が安い KS ケーズデンキ

お買上げ明細
2020年 2月 7日(金) 14時45分

【お名前】 (3236000054379)
双 ケジ
奴間 健司 様

<明細>

1 ●インクカートリッジ エプソン 4988617268852 KUI-BK-L 10%値引対象 1点	・ 持帰 10% ¥1,247
1点/合計	¥1,247
税率別内訳 / 課税対象額 10% (内消費税額)	¥1,247 ¥113

[0533236-053027939-2310005748998]

領収証
2020年 2月 7日(金) 14時45分

金額 ¥1,247
(内消費税等 ¥113)
但し、お品代として
上記金額正に領収致しました。

<決済内訳>

現金	¥1,247 (内消費税等 ¥113)
現金お預かり お釣り	¥1,547 ¥300

ケーズデンキ古賀店
電話番号 092-410-3170
販売担当者

店コード 2200005332368
売上伝票番号 2310005748998

あんしんパスポートアプリダウンロードと
新規登録でクーポンプレゼント中!
【実施期間：2020年3月31日まで】



新製品が安い KS ケーズデンキ

お買上げ明細
2020年 3月 3日(火) 10時11分

【お名前】 (3236000054379)
双 ケジ
奴間 健司 様

<明細>

1 ●インクカートリッジ エプソン 4988617268852 KUI-BK-L 10%値引対象 1点	・ 持帰 10% ¥1,247
1点/合計	¥1,247
税率別内訳 / 課税対象額 10% (内消費税額)	¥1,247 ¥113

[0533236-053022644-2310005770999]

領収証
2020年 3月 3日(火) 10時11分

金額 ¥1,247
(内消費税等 ¥113)
但し、お品代として
上記金額正に領収致しました。

<決済内訳>

現金	¥1,247 (内消費税等 ¥113)
現金お預かり お釣り	¥1,252 ¥5

ケーズデンキ古賀店
電話番号 092-410-3170
販売担当者

店コード 2200005332368
売上伝票番号 2310005770999

あんしんパスポートアプリダウンロードと
新規登録でクーポンプレゼント中!
【実施期間：2020年3月31日まで】



領 収 証 書

No. 156 奴間 健司 様

金額 80 円也

但し、コピー代として

上記の金額を領収しました。

領収印

1.8.2

出納員
古賀市役所総務部総務課長

領 収 証 書

No. 171 奴間 健司 様

金額 90 円也

但し、コピー代として

上記の金額を領収しました。

領収印

1.8.30

出納員
古賀市役所総務部総務課長

領 収 証 書

No. _____ 奴間 健司 様

金額 300 円也

但し、コピー代として

上記の金額を領収しました。

領収印

1.4.8

出納員
古賀市役所総務部総務課長

領 収 証 書

No. 285 奴間 健司 様

金額 100 円也

但し、コピー代として

上記の金額を領収しました。

領収印

1-11.35

出納員
古賀市役所総務部総務課長

平成 31 年度

古賀市

納 付 書 兼 領 収 書

納付者 様

奴間 健司

会計	01	一般会計						
※ 21	項 04	目 04		節 01	細節 01	細々節		
金額							710	円
内容 11月分議員コピー使用料								
担当課		800000 議会事務局						
納期限								
発行日		令和 元年 12月 2日						
納付場所		左を参照してください。						
上記の金額を納期限までに納入してください。								
古賀市役所 古賀市長 田辺 一城								
取りまとめ店：福岡銀行 古賀支店								

上記金額を領収しました。

この領収書は収納場所の領収印によってその効力を生じます。

日付印

1.12.25

(納入者保管)

平成 31 年度

古賀市

納付書兼領収書

納付者	[Redacted]
	奴間 健司 様

会計 01 一般会計

款 21 項 04 目 04 節 01 細節 01 細*節

金額 310 円

内容 1月分議員コピー使用料

担当課 800000 議会事務局

納期限
 発行日 令和 2年 2月 3日
 納付場所 左を参照してください。
 上記の金額を納期限までに納入してください。

古賀市役所
古賀市長 田辺 一城

取りまとめ店：福岡銀行 古賀支店

上記金額を領収しました。	領収日付印 [Redacted]
この領収書は収納場所の領収印によってその効力を生じます。	[Redacted]

(納入者保管)

平成 31 年度

古賀市

納付書兼領収書

納付者	[Redacted]
	奴間 健司 様

会計 01 一般会計

款 21 項 04 目 04 節 01 細節 01 細*節

金額 40 円

内容 10月分議員コピー使用料

担当課 800000 議会事務局

納期限
 発行日 令和 元年 11月 1日
 納付場所 左を参照してください。
 上記の金額を納期限までに納入してください。

古賀市役所
古賀市長 田辺 一城

取りまとめ店：福岡銀行 古賀支店

上記金額を領収しました。	領収日付印 [Redacted]
この領収書は収納場所の領収印によってその効力を生じます。	[Redacted]

(納入者保管)